

リツめい

題字・末川博名誉総長

2000.4.1

立命館大学校友会報

No.200

RITS

特集

立命館100年の歩み



1890

1900

1910

1920

1930



1940



1950



1960



1970



1980



1990



2000



りつめい

No.200 2000.4.1

目次

立命館創始130年、学園創立100周年、新世紀への旅立ちにあたって 3
河原四郎 立命館大学校友会会長

【総長インタビュー】

立命館の新世紀 学園展望を語る 6
長田豊臣 立命館総長

【特集】

年表と写真でたどる 立命館100年の歩み 8

立命人なら知っておきたい 雑学いろいろ事典 14

【100周年記念特別インタビュー】

わたしと立命館 16

川本八郎さん(昭33法) 住野公一さん(昭45経済)

竹内美奈子さん(昭58法) 高橋葉子さん(平8国際)

【立命館学園各校・海外協定校紹介】

広がる立命館ネットワーク 20

いよいよ開学 立命館アジア太平洋大学 4

学園創立100周年記念式典・2000年度全国校友会大会のご案内 24

校友会ネットワーク 26

立命館ファミリーカードコーナー 28

キャンパスピックス 30

ますますのご健康とご活躍を! 32

都道府県校友会・学部校友会連絡先一覧 34

INFORMATION 36



京都御苑西園寺邸、家塾「立命館」の位置(赤色部分)をあらわす図



京都法政学校第1回卒業証書

1903(明治36)年、京都法政学校が第1期生のひとり西村七兵衛氏に授与した卒業証書で、現存が確認できる唯一の第1期証書である。修学した19科目の科目名と、担当講師の名前が列挙されている。ここには本学の草創期を支えた、富井政章、田島錦治、織田萬らの名が見てとれる。

この証書は、西村氏の孫の15代西村七兵衛氏から本学に寄託されている。

(縦約40cm×横約50cm)

立命館創始一三〇年、 学園創立一〇〇周年、 新世紀への旅立ちにあたって

立命館大学校友会会長 河原 四郎



内外各地でご活躍の校友の皆様には、日頃から校友会の諸活動にご参加頂き、また母校への継続的なご援助を頂いておりますことを心から感謝申し上げます。

さて、我が母校立命館は、本年まさに創始一三〇年、創立一〇〇周年の記念すべき年を迎え、内外各方面からのかつてないご期待とご支援を背景に、この四月には、立命館アジア太平洋大学を開学いたします。

母校立命館はこれまで一〇〇年に及ぶ星霜、教育研究活動の首為を積み重ねて来ました。そして今、国際社会の変化に対応し、科学の英知と人類の未来に責任をもつ高等教育機関として積極的に学園創造を進めていく決意を具体的かつ明確な形で内外に示しました。

それらが各方面の大きなご支持を得て大きく推進されていることは、私たち校友にとりまして、望外の喜びです。

私たちは、校友として母校立命館が国際社会でよりいっそう名譽ある地位を確立していく取り組みに継続的に参画できること、また、新世紀の学園創造の中心事業である立命館アジア太平洋大学がアドバタイザリーコミッティーを始めとする政財界の方々、また大分県と別府市の格別のご配慮ご尽力によって無事開学されることに、今、新たな誇りと責任の重さを感じるものです。

「広小路」、「衣笠」、「びわこ・くさつ」の各キャンパスで学んだ二三十万人にのぼる我々校友は、母校立命館関係者の継続的な努力がこの間の発展を生み、そのことによる支持基盤の拡がりや強化がさらに高次の課題と目標を与え、さらなる発展を呼ぶという繰り返しによって母校立命館がその評価を高め、より高次の社会的責任をもつ大学に発展してきた経過を熱い思いで見守ってきました。

今回、校友会として、立命館アジア太平洋大学に正門を贈る記念募金を実施いたしましたところ、実質的には半年ほどの期間であったにも拘わらず、五〇〇〇名を超える校友の方々から約一億円に及ぶ募金を集めて頂くことが出来ました。ここにあらためて深く感謝申し上げます。

校友会としては、来る五月二〇日(土)の学園創立一〇〇周年、立命館アジア太平洋大学開学記念式典を記念校友大会と位置づけ、新たな校友会としての学園支援のスタートとすべく最大限の参加による大交流企画を企画いたしました。

母校の発展と後輩の活躍を願う支援活動、そのための互いの研鑽と励まし合いこそが校友相互の願いであり、校友会活動の目的とするところです。

記念大会に集い、共に一〇〇周年を祝うとともに母校の発展に対応した新たな校友会活動の創造へ向け決意を固め合おうではありませんか。

1日

いよ開学 立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan

大分県別府市、太平洋を一望できる緑豊かな丘に、立命館アジア太平洋大学が開学する。

41.6ヘクタールの広大な校地には、最新の教学設備を備えた施設が立ち並び、
キャンパスの主役である若者たちによって生命を吹き込まれる日を待っている。

世界中の言語と文化が触れ合い、21世紀の国際社会を切り拓く人材を育てる場、
そして地域社会に開かれた学びの場、それが立命館アジア太平洋大学である。

Asia Pacific University

Opening in April, 2000



Front Gate
立命館から世界に開かれた門



Building B Faculty Offices / Building A Administration
アジア太平洋研究のセンター/APUの本部機能と学生サポート機能を集約



Building C Millennium Hall
世界の文化がクロスする本格的ホール



Building D Media Center
マルチメディア型の学習サポート施設



Building E Student Union
学生の自主活動のセンターとして



Building F Classrooms
APUの学びの拠点



Building G Gymnasium
アリーナとトレーニングジムを収容



AP House
異文化交流のメインステージ

2000年4月
いよ



立命館の新世紀 学園展望を語る

立命館学園は、今年五月に創立一〇〇周年を迎えます。一〇〇年の歴史を踏まえて、今後の立命館学園の課題について、長田総長にお話を伺いました。

まず、総長ご就任後一年が経過しましたが、その辺りから学園が抱えております課題についてお伺いできますでしょうか。

昨年一月一日に総長職に就任して以来、早くも一年がたちました。月日の流れの早さに改めて驚いております。昨年私は、立命館アジア太平洋大学の二〇〇〇年開校、BKCにおける文理融合のより高度な次元での実現、衣笠キャンパスにおいてどのような新しい理念を掲げ、また、それを社会に発信していくのか、大学院を私立大学財政の制約のもとでどう高度化し、かつ立命館としての特色を出していくのか、本学園の中高一貫の教学体制のなかで三高校、二中学の中等教育をどう位置づけ、また、その機能をより有効にしていけるのかなどの学園の直面している重要課題について抱負をお話しさせていただきました。その学園課題は基本的には今年も変わりません。ご承知のように、われわれの抱える学園課題は、一年や二年で簡単に克服

解決できるほど単純なものではないからです。それは単に立命館学園の課題に止まるものではなく、我が国の高等教育のあり方をも大きく変える野心的で構造的ないわば国民的課題なのです。

そうした課題についての現在の進捗状況はいかがですか？

今述べましたような困難な課題に対して、我が学園の教職員はこの一年間心を一つにして努力を続け、着々と成果を上げてきました。

その第一は、立命館アジア太平洋大学の二〇〇〇年開校の現実化です。アジア・太平洋、そして世界に広がる国際大学はもう夢物語ではなく、われわれ立命館学園の手によって現実となったのです。創立一〇〇周年の本年五月二〇日には、世界のリーダーを別府にお招きして盛大な式典を挙行することになります。この新大学は、まちがいに今後世界に大きなインパクトを与え続けるでしょう。

BKCにおける文理融合に象徴され

る教学改革や公私協力も、金融工学に関連した仮想市場を実現するサイバー・ディリーング・ルームの設置や、最先端の半導体研究を行う立命館大学BKCローム記念館（仮称）設置に見られますように、着実に成果を上げつつあります。

衣笠新展開もアート・リサーチセンター設立や、人間化分野新学科構想の実現への始動など、活発に動きはじめています。

大学院に係る課題もこの一年で取り組みはかなり進んでいきます。臆げながらではありますが、将来の立命館大学のあり方が皆に見えはじめています。

また、中・高・大一貫教育に関わっては、中央教育審議会答申等の動きが活発ななか、中等教育推進室から中等教育部に組織編成を変えまして、立命館ならではの一貫教育の仕組みについて、議論を進めております。

しかし、われわれが、今問いかけるべきは、この一年間で何がどこまで進んだかという点検よりも、これらの壮大な二一世紀へ向けた学園課題を支え



る哲学もしくは理念を、どのようにして全学構成員がその共通認識とし、血肉化していくのかという点にむしるあると思います。われわれの戦いは果てしなく長く、そして困難なのであります。

そういつた哲学や理念ということに関わっては、どのようなことをお考えでしょうか？

立命館学園は本年創立一〇〇周年を迎えます。国立大学の圧倒的優勢ながら、国家権力と一定の距離を置きながら、われわれの理想とする個性的人材の育成に二一〇〇年孜孜としてとて努めて参りました。よく頑張ってきたものだと思えます。しかし、戦後五〇年の社会と経済の変化は旧来の大学のあり方を大きく変えつつあります。いわゆるマニニアル中心の学習能力に優れた人材育成から、人間味に溢れ、柔軟な発想ができ、ものごとを多面的に見ることのできる、所謂、個性的な人材の養成こそが新しい大学の使命となったのです。このことは、まさしくわが国の高等教育の歴史の中で私学が担ってきた役割そのものです。その意味で、私学の時代が来たと言えるでしょう。

「私学の時代」ということで、可能性が開けてくるという展望があるのでしょうか？

確かに二一〇〇年程の間に、私立大学のステータスは高まってきていると言われますが、私学、そしてわが立命館は、このままで二一世紀のわが国の高等教育をリードし得る存在になれるでしょうか。それは単に受験者増によ

つていわゆる偏差値が押し上げられたという側面を否定できないのではないのでしょうか。さらに少子化と大学進学率の高まりは、多様な背景と様々な問題関心、そしてわれわれの知っている伝統的大学生とはかなり異なる学力水準の学生の受け入れを不可避にします。

この様な学生を学部四年間で基礎学力も含めて、どれだけ知的にも精神的にも成長させうるのか。そのシステムを大学はどう用意できるのか。それなくしては、私立大学の優位も、個性的教育も創造性尊重も、所詮は私立大学の独りよがりになることでしょう。このような教学の質の高度化の課題は、労多くして報われることの少ない地味な仕事です。時間とエネルギーを絶望的なまでに食い、一気呵成には成果を期待できません。しかも、かなりしばしば、この作業は教職員の既得権と抵触するでしょう。しかし、わが立命館が二一世紀のリーディングユニバーシティとして生き残るためには、この辛い作業は、避けては通ることのできない課題なのです。これまで通り、われわれは、必要に応じて新学部創設や新キャンパス政策等、様々の学園展開を推進していかなくてはなりません。なぜなら、教育には、これで良いとかここまでとかいった終わりが無いからで

す。しかし、教学の質の高度化とその内容造りも、同じく根気よく続けなくてはならない課題です。一九九九年度の全学協議会でもそうした課題を全学を挙げて議論し、確認文書として学園の合意形成を図ってまいりました。

創立一〇〇年を迎えて、我々はいま質の問題を本格的に論ずる段階を迎えたのです。この問題を克服することが日本の大学の頂点を立命館が極めることとなるのです。

有り難うございました。私学立命館の根本的な有り様にも関わる課題が指摘されたと思います。最後に、そうした課題を担っていく教職員の方々や立命館の取り組みを様々な意味で支える校友に対して、一言お願いいたします。

ここまで立命館が躍進して参りましたのは、ひとえに、教職員や校友をはじめとする学園を取り巻く関係者の方々のおかげです。立命館を代表して、この場をお借りして皆様から感謝の意を表したいと思えます。今後、楽しく働き甲斐のある、そして学生には学び甲斐のある学園を創っていくために、学園関係者の皆様から心からの連帯と友情を訴えたいと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。



立命館 総長
長田 豊臣
ながた とよおみ

1938年生まれ。62年立命館大学文学部史学科卒業。65年同大学院文学研究科修士課程修了。同文学部助手、助教授を経て79年教授。93年文学部長。97年立命館副総長・副学長。99年1月、立命館総長・立命館大学学長に就任、現在に至る。専門はアメリカ史、文学博士。

第一期 創始から太平洋戦争終結まで

家塾立命館と京都法政学校 草創期の学園

一八六九年、二三歳の青年公卿西園寺公望は京都御所の自邸内に私塾立命館を創立した。塾内は京都のみならず各藩から集まった若者の熱気に溢れ、西園寺は邸内に長屋を建て増したほどであった。ところが翌年、



西園寺公望

立命館は京都府より差留命令を受ける。その時西園寺は長崎に滞在中で、さらにそのまま九年にも及ぶフランス留学に入ったため、立命館は一旦消滅してしまっただ。



中川小十郎

西園寺は帰国後、第一次伊藤内閣の文部大臣に就任した。その秘書官を務めたのが本学創設者中川小十郎である。京都帝国大学設立などに尽力しつつ、二人の間柄は深まっていた。

一九〇〇年、木下廣次・織田萬ら京都帝国大学諸教授の賛同を得て、中川は本学の前身、京都法政学校の設立を果たす。向学の志を持ちつつも叶わぬ青年たちのためであった。



清輝楼外観

京都法政学校は鴨川河畔の旗亭清輝楼を仮校舎として出発した。講義は勤労者に門戸を開くため夜間に行われ、京都帝国大学法科大学の教授陣が教壇に立った。学長は中川・織田の共通の師であり、西園寺ともフランス留学の時期を同じくしていた富井政章、教頭は井上密(後の京都市長)、学監は中川自身が務め、一流の学者たちが講師として名を連ねていた。翌年には寺町広小路に校地を取得、校舎の増築が進んでいた一九〇五年には、西園寺は京都法政学校が「立命館」の名称を受け継ぐことを許し、扁額を揮毫して中川に与えた。

大学昇格に向け 全国校友会尽力

一九一三年、中川は学校の財政基盤強化のため、私財を投げ打ち、「財団法人立命館」を設立、あわせて校名を「私立立命館大学」に改めた。高等文官試験・弁護士試験・判検事試験にも合格者を出すようになり、法律の専門教育機関として着々と実績を重ねていった。しかし、立命館大学は名称は大学と改めたが制度上は専門学校のままであった。一九一八年に発布された



1925年大学野球部

第一期の年譜

- 一八六九 西園寺公望 家塾「立命館」創設
- 一九〇〇 中川小十郎「京都法政学校」創設
- 一九〇一 上京区清和院口寺町東に校舎を新築、仮校舎より移転
- 一九〇三 「私立京都法政学校」を専門学校令による「私立京都法政専門学校」に改める
- 一九〇四 専門学校令に依る「私立京都法政大学」設立、認可。大学部増設
- 大学部：法律学科・経済学科・大学予科
……屋間制
- 大学部：法律科・行政科・経済科高等
研究科……夜間制
- 一九〇五 西園寺公望「立命館」の名称継承を許諾
「立命館」の大扁額寄贈
私立京都法政大学附属「清和普通学校」
創立(現在の中学校の前身)
- 一九〇六 清和普通学校、中学校令により「私立清和中学校」に改組。七月、大学構内に中学校新校舎竣工
- 一九一三 「財団法人立命館」設立、認可
- 大学を「私立立命館大学」、中学を「私立立命館中学校」と改称
- 財団法人設立祝賀校友会大会、円山左阿弥に於いて開催
- 校旗並びに制服、制帽制定
- 一九一五 図書館開設
- 一九一九 私立立命館大学を「立命館大学」と改称認可
- 創立一〇周年記念祝賀式挙行、同記念校友会大会を開き全国校友会結成
- 一九二〇 緊急全国校友会大会、大学令による大学への昇格運動決議、大学昇格基本金募金開始
- 一九二二 大学令(旧制)による「立命館大学」昇格、認可
- 法学部(法律学科・経済学科)・研究科
大学予科設置認可。立命館大学昇格祝賀会開催
- 富井政章、大学令による学長に就任
- 一九二五 中学校、小山上総町に校舎新築・移転
西園寺公望、英・仏書一八〇冊を寄贈
図書館を「立命館文庫」と改称し開館
- 一九二六 立命館大学出版部設立
- 一九二七 専門学部文文学科、大学商学部、予科三年制(屋間制)を設置
田島錦治、学長に就任
- 一九二八 専門学部を法経学部へ改組し、法律学
大学法学部を法経学部へ改組し、法律学

大学昇格認可書



大学令による大学となるためには、専任の教授体制や一定の施設条件を整えること、更には五〇万円もの供託金が必要であった。東京の有力私学や同志社は相次いで昇格を果たしたが、立命館がこの壁を乗り越えるのは容易ではなく、中川は昇格には消極的な態度を表明するに至った。

けれども卒業生たちの大学昇格への熱意は抑え難く、畝川鎮夫（初代校友会長）らが中心となって全国校友会を組織し（一九一九）、供託金と図書費一〇万円の調達に立ち上がった。関係者の奮闘により一九二三年には募金心算が六〇万円を超え、ついに大学昇格が果たされたのだった。

総合大学立命館への足固め 昭和初期の学園

日中戦争・太平洋戦争と続く戦時下にも、立命館学園は規模の拡大を続けていた。全国に先駆けて夜間大学が開設され（一九二九）、法経分野のみならず、専門学部文科学科では国語漢文科に加え、歴史地理学科が新設され（一九三五）、また、理工学部の前身として立命館高等工科学校が発足（一九三八）、日満高等工科学校に発展した（一九三九）。日満高等工科学校は衣笠山南麓の地に建設され、これが現在の衣笠キャンパスの始まりである。



京大事件による免官教員の招聘を報じる新聞

特筆すべきは、一九三三年、学園の自由と大学の自治を唱え京大事件で辞職した佐々木惣一・末川博・恒藤恭ら教授・助教授一七名を専任教員として招聘したことがある。立命館大学への社会的評価は高まり、これを機に学生数も増加した。

各学科・専門学校の編成替えや昇格を経て、広小路に法文学部（経済学科は法政学科に包摂）、衣笠に専門学部理・工学科という形で本学は総合大学の体を整えつつあった。

学園の発展の一方で戦局はますます悪化し、一九四三年には徴兵猶予が停止され、学生の半数以上が学徒出陣、残った者も勤労動員されるという事態となり、授業は事実上中止された。

このような状況の中、太平洋戦争開戦前年に永眠した学祖西園寺公望に続き、一九四四年一〇月には創立者中川小十郎も逝去した。享年七七歳。いつもの通り学園に出勤し、帰宅した後の卒然たる逝去であった。

広小路学舎1936年前景



軍事教練



日満高等工科学校
機械工学科動力実験

- 一九二九 私立立命館中学校を「立命館中学校」と改称。
- 一九三〇 立命館楽隊結成。
- 一九三二 法経学部ならびに大学文科に「夜間部」設置。
- 一九三三 立命館商業学校設立。
- 一九三三 上賀茂グラウンド完成。記念全学大運動会開催。
- 一九三三 法経学部商学科開設。
- 一九三三 総長制施行。初代総長 中川小十郎 名誉総長 織田萬。
- 一九三三 西園寺公望 和漢書三〇〇冊を寄贈。
- 一九三三 近衛秀麿へ委嘱の校歌作曲完成。
- 一九三三 専門学部（高等商業科設置）。
- 一九三三 「京大事件」で退官の教授・助教授ら一七名招聘。
- 一九三四 佐々木惣一、学長に就任。
- 一九三五 創立三五周年祝賀式挙行。
- 一九三六 池田繁太郎、理事長に就任。同二〇月死去。
- 一九三六 「中川会館」竣工。西園寺公望より南天竹・山梔子寄贈。
- 一九三七 立命館大学として博士学位第一号授与。田島順「民法一九一条の研究」。
- 一九三七 立命館商業学校夜間部・立命館夜間中学校開校。
- 一九三八 「立命館高等工科学校」開設。
- 一九三八 「西園寺文庫」創設。
- 一九三九 「立命館日満高等工科学校」開学。
- 一九四〇 田中昌太郎、学長に就任。
- 一九四〇 公卿西園寺公望死去。享年九二歳。西園寺公望を「学祖」として永久に敬仰することを決定。
- 一九四一 大学法経学部を法文学部（法政学科・文科学科）に改め、専門学部も改組（法政学科・文科学科・高等商業科）。
- 一九四一 松井元興、学長に就任。
- 一九四一 国防学研究所設立。
- 一九四二 勅令により、大学・専門学校の修業年限を短縮。
- 一九四二 日満高等工科学校、立命館大学専門学部工学科に昇格。理科学科新設。
- 一九四二 加古祐二郎旧蔵の法律書を寄贈。「加古文庫」創設。
- 一九四四 立命館同学会（校友会）会則制定。
- 一九四四 中川小十郎総長死去。享年七七歳。
- 一九四四 中川幹太、総長事務取扱に就任。石原廣一郎、理事長に就任。

第二期 終戦から衣笠一拠点化完成まで

新生立命館の始動

終戦により戦時的な種々の制限が撤廃され、大学は復活した。一九四五年九月には授業が再開され、校友会も結成された。立命館研究所（後の人文科学研究所）が同年創設をみて、翌年には全国の大学公開講座のうち最も長い歴史を誇る立命館土曜講座も開始された。

戦後の立命館は、末川博学長（のち総長）のもと、復興と改革を指して邁進を始めた。学校教育法による新制大学への転換は、それまでにほぼ形態を整えていたためスムーズに行われ、一九四八年に法・経済・文の三学部を持つ総合大学として再出発した。翌年には理工学部も加わり、他に短期大学、高等学校三校、中学校二校もあわせ持つ一大総合学園となったのである。五〇年には大学院も開設された。その翌年には財団法人から学校法人へ組織変更されている。



末川 博

全学協議会



「平和と民主主義」の教育理念のもと、民主的な学園運営実現のために一九四九年総長公選制が導入された。これは理事・評議員・専任教職員・学生生徒ら全学の代表による公選制度で、とりわけ注目を集めた。同じく忘れてならないのは同年の全学協議会制度の創設である。学園運営の重要事項は、すべての学園組織と学生の代表で構成する協議会で合意を形成するという他に類例を見ないものである。これら二つの制度は立命館の民主主義を象徴するものとして、その後も発展している。

さらに、反戦・平和の誓いを新たにしようという末川総長の発意により、一九五三年広小路学舎清心館前に「わだつみ像」が建立された。本学では毎年、旧日本軍が真珠湾を攻撃した二月八日にこの像の前で「不戦のつどい」を開いている。

二学部増設と衣笠移転開始

続く六〇年代は研究と教育の条件が整備される時代であった。経済が高度成長期に入り、日本の社会構造が大きく変化する



広小路学舎夜景

第一期の年譜

- 一九四五
（昭和二〇）
禁衛隊廃止
授業再開
立命館校友会結成
財団並びに学園全体の機構改革を行う学園民主化運動始まる。
- 一九四六
立命館土曜講座始まる
- 一九四七
新制・立命館中学校、「立命館神山中学校」設立
- 一九四八
（新制）立命館大学（法・経済・文の三学部 一・二部）開設。文学部四学科六専攻
- 一九四九
北川敬夫、理事長に就任。
総長選挙規定制定。第一回総長選挙、末川博当選。
全学協議会設置。
理工学部一部（二部）（五学科）開設。
総合（マウンド）（衣笠球場）竣工。
- 一九五〇
立命館短期大学設置。
大学院設置。修士課程。法学研究科、経済学研究科、文学研究科。修業年限（全日制）一年以上、定時制二年以上。
創立五〇周年記念式典挙行。
大学協議会設置。
- 一九五一
財団法人立命館から「学校法人立命館」へ組織変更。
- 一九五二
神山中学校・高等学校を北大路学舎に併合。
- 一九五三
「立命館創立五十年史」刊行
「わだつみ像」建立除幕式。
- 一九五四
立命館短期大学廃止。
- 一九五七
各学部にて五者会談を設置。

衣笠全景



結果、一九七〇年には産業社会学部が移転し、七八年には文学部と二部の全学部、さらに翌年には法人本部が衣笠に移った。八一年、最後に残った一部法学部が広小路に別れを告げ、衣笠一拠点化計画は成し遂げられたのである。

一九六〇年代後半、本学でも大学紛争の嵐が吹き荒れ、一九六九年の広小路学舎では、法人本部のあった中川会館や産業社会学部のあった恒心館がバリケード封鎖される事態が生じた。この状況下でも本学では関係者の力を結集し、入学試験をはじめとする各種学事を遂行した。その後も衣笠一拠点化推進にむけた努力が続けられた



大学紛争

大学紛争の克服と衣笠一拠点化完遂



産業社会学部第1回入学式



なかで、本学は教学の「現代化・総合化・共同化」を図り、一九六二年には経営学部を、一九六五年には産業社会学部をそれぞれ開設した。二学部増設となると広小路学舎では狭隘になり、衣笠一拠点化が志向されるようになった。高等教育機関にふさわしい小集団教育の実現など、教学条件の改善を目指してのことであった。一九六五年、一部経済・経営の二学部がまず衣笠に移転、先に衣笠にあった理工学部校舎も、六三年に五号館、六五年に六号館をそれぞれ竣工した。



広小路清心館食堂

- 一九六〇 旧大全令による立命館大学廃止
小田美奇碑、理事長に就任。
創立六〇周年記念式典挙行。
- 一九六一 学園振興懇談会設置。
- 一九六二 経営学部（入学生員三〇〇名）開設。
立命館大学生協同組合設立。
「読売テレビ」大学講座・放送開始。
- 一九六四 経営学部一部開設。
- 一九六五 産業社会学部（入学生員三〇〇名）開設。
一部経済・経営学部衣笠学舎に移転。
（昭和四〇）
- 一九六六 土曜講座一〇〇〇回記念大講演会開催。
衣笠に「図書館」竣工。
- 一九六七 衣笠に「図書館」竣工。
- 一九六九 寮連合、中川会館封鎖、「大学紛争」発生。
末川博、総長任期満了退任。武藤守一、
総長事務取扱に就任。
全共闘、広小路学舎「わたつみ像」破壊
衣笠に「体育館」竣工。
- 一九七〇 武藤守一、総長就任。一〇月死去。
産業社会学部衣笠学舎に移転。
細野武男、総長就任。
格闘総合グラウンド竣工。
「わたつみ像」再建除幕式開催。
- 一九七一 創立七〇周年記念式典挙行。
「公費助成推進のための立命館大学連絡協議会」結成。
木村雅一、理事長に就任。
- 一九七二 「長期計画委員会」発足……一拠点指向の実行計画。
- 一九七五 上西賢代治、理事長に就任。
- 一九七七 末川博名誉総長死去。享年八四歳。
- 一九七八 文学部・二部全学部衣笠学舎に移転。
天野和夫、総長就任。
- 一九七九 大学本部、衣笠学舎に移転。
本部棟「中川会館」竣工。
- 一九八一 広小路学舎閉校祭典開催。
法学部衣笠学舎に移転。
西村清次、理事長に就任。
キャンパスの衣笠一拠点完成。創立八〇周年・衣笠移転完成記念式典挙行。

第二期

二大キャンパス化の実現を経て
立命館アジア太平洋大学の開学へ

国際化・情報化の進展

一九八〇年代、本学は教学の「国際化・情報化・人間化・開放化」の追求を掲げ、社会の進展や学問の動向を踏まえて既存学部のリフレッシュを図る一方、さらに新学部・新学科の設置を積極的に推進した。

国際関係学部は、西日本で初めての本格的な学部として、一九八八年に開設された。各専門分野で第一級の研究者に加えて、外交官・商社マン・銀行員・ジャーナリスト等の実務家が教員として名を



西園寺記念館（国際関係学部）

連ね、徹底した少人数教育を行うこととした。また外国人教員や留学生・帰国子女を積極的に受け入れ、海外の研究教育機関との交流をはかることにより、学部全体の国際化が志向された。

既設学部においても国際化が急速に進んだ。学生は交換留学や海外セミナーに積極的に参加し、逆に本学で学ぶ外国人も急増した。留学を経験した学生たちは、卒業後もひろく世界で活躍している。

一方、理工学部情報工学科は、高度情報化を迎えつつあった社会への寄与はもろろんのこと、理工学部の教学刷新の具現化をはかるものとして一九八七年に新設された。これにあわせて、学園内の情報化も進展し、学術・就職・学籍等、各種情報の管理がコンピュータで行われるようになっていった。

国際平和ミュージアム（内部展示とわだつみ像）



BKCそして立命館アジア太平洋大学

一九九四年、理工学部・理工学研究科は学科・専攻の再編・拡充にあわせ、滋賀県草津市の「びわこ・くさつキャンパス（BKC）」に移転した。ここから本学の、衣笠・BKC二大キャンパス時代が始まった。

第二期の年譜

- 一九八二 副学長制設置
原公分ラウンド竣工。
- 一九八三 業務電算化基本要綱制定。
末川記念会館竣工。
- 一九八五 谷岡武雄、総長就任。
国際センター開設。
- 一九八七 理工学部情報工学科開設。
- 一九八八 国際関係学部開設。
国際地域研究所設置。
立命館中学校・高等学校男女共学化、深草学舎へ拡充移転。
京都国連寄託図書館を誘致。
土曜講座、二〇〇〇回を迎える。
- 一九八九 副総長制・専務理事制を制定
国際言語文化研究所設置。
理工学部拡充移転・草津市に第二キャンパス設置を発表。
- 一九九〇 教育科学研究所設置。
立命館創始二〇年・学園創立九〇周年記念祝賀会開催。
『西園寺公望』第一巻刊行。
- 一九九一 大南正栄、総長就任。
大学主兼廃止。
立命館・UBCジョイントプログラム実施。
- 一九九二 エクステンションセンター開設。
大学院国際関係研究科開設。
国際平和ミュージアム設立。
父母教育後援会設立。
立命館・UBCハウス（カナダン）完成。
- 一九九三 国際環境・開発研究センター設置。
理工学部、生物工学科・環境システム工学科を増設、情報工学科を改組して情報学科設置。
立命館大学けいはんなセンター開設（関西文化学術研究都市）。
- 一九九四 理事長、理工学研究科がびわこ・くさつキャンパスへ拡充移転。
政策科学部を開設。
セメスター制度、授業週五日四講時制などの大幅な教育改革を実施。

立同戦 99



別府湾を見下ろす丘には既に真新しいキャンパスが完成し、日本の若者と海外からの留学生在が向学のエネルギーをぶつけ合う開学の日を待つばかりとなっている。立命館の新世紀はいま、世界に向けての飛躍から始まる。

設置認可がありました。
んだ結果、一九九九年一月に晴れて文部省より
の課題が横たわる中、学園の総力をあげて取り組
野からの賛同の声と社会的支援を得ながら、幾多
国内外の産業界・教育界・官界その他あらゆる分
動き出すことを提言した。この後全学合意を経て
大学「立命館アジア太平洋大学」の設立に向けて
一九九四年、我が国では先例をみない本格的な国際

また本学は、生涯学習社会の進展に対応して、二部（夜間部）の伝
統と成果の上に立ち、一九九六年度より「昼夜開講制」を導入した。
夜間主コースのみならず昼間主コースにも社会人学生を受け入れるこ
とで、社会の広範な高等教育要求に対応することとなった。社会人学
生が二十歳前後の学生と機会を並べ、互いに刺激し
あう姿が新しいキャンパス風景となっている。

さて、本学の「新21世紀学園構想委員会」は一
九九四年、我が国では先例をみない本格的な国際
大学「立命館アジア太平洋大学」の設立に向けて
動き出すことを提言した。この後全学合意を経て
国内外の産業界・教育界・官界その他あらゆる分
野からの賛同の声と社会的支援を得ながら、幾多
の課題が横たわる中、学園の総力をあげて取り組
んだ結果、一九九九年一月に晴れて文部省より
設置認可がありました。

これは「社会に開かれた大学」を謳い、産業界や官公庁との技術交
流を図りつつ財政的に自立する道を模索していた理事部の意向と
地域活性化や地元企業への技術貢献等の効果を期待した地元滋賀県・
草津市の意向とが合致した結果であった。BKCでは活発な「産官学
地域交流」が行われ、開かれたキャン
パスを実現している。

BKCでの教学改革は一層進み、一
九九八年四月には経済・経営両学部も
移転を果たした。学部の枠を越えた学
際的な能力を備えた人材を希求する社
会からの要請に応えるため、BKCは
画期的な文理融合型のキャンパスとし
て生まれ変わったのである。

衣笠キャンパスにおいては、国際関
係学部につき、最も新しい学部である
政策科学部が新設された。一九九四年のことである。官民各界におい
て、積極的な企画立案能力やそれを実行する力をもった人材を望む声
が高まったことを受けての開設であった。政策科学部ではフィールド
ワークを重視し、自治体との研究交流やインターンシップ制度を活用
して、学生の資質向上と地域社会への貢献を共に実現している。



松本記念ホール 陪審法廷



BKCキャンパスと学生たち



二〇〇〇 「立命館アジア太平洋大学」開学。

『立命館百年史 通史一』刊行。

アイト・リサーチセンター開設

長田豊臣 総長就任。

一九九八

松本記念ホール陪審法廷竣工。

経済・経営両学部 びわこ・くさつキャンパスへ移転。

文理総合インスティテュート開設

学術フロントティア共同研究センター開設

東京オフィス開設。

一九九七

大学院政策科学研究科開設

ハイテク・リサーチ・センター設置

一九九六

昼夜開講制を実施

理工学部、光工学

科・ロボティクス学

科増設。

立命館アジア太平洋

研究センター設置。

人文科学総合インス

ティテュート開設。

一九九五

「立命館アジア太平洋大学」設置構想

公表。

研究所総合機構設立

アメリカ研究センター設置

慶祥学園との法人合併により、立命館大

学慶祥高等学校」設置

大阪オフィス開設。

川本八郎 理事長に就任。

宇治学園との法人合併により、「立命館宇

治高等学校」設置



SRセンター

立命館にはいろんな「マーク」があったようですが？

ZATSUGAKU#4

1913年（大正2）年、校名に「立命館」と冠された時、帽章が定められました（図1）。当時は大学・中学校ともにこの帽章を用いていました。1923年頃、大学の帽章・襟章が、懸賞募集により図2のように決まりました。これが現在の大学校章の土台です。20年代末には「大」の銀文字が乗り（図3）、さらにその後1941年（昭和16）頃「大学」とあしらったものが（図4）現在も校章として受け継がれています。

亀の子のような「立マーク」（図5）は、1960年（昭和35）創立60周年記念公募の入賞作で、当時法学部3回生、青木喬氏の作品です。

1994年に「Rits」ロゴマーク（図6）が誕生したことにより、親しまれた「立マーク」はその役割を終えました。

（図1）



（図2）



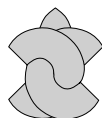
（図3）



（図4）



（図5）



（図6）

RITS

スクールカラーはどうして「えんじ色」なの？

ZATSUGAKU#5

入学式や卒業式を思い出してみてください。実は「校旗」は「えんじ色」ではなく「紫紺色」なのです。1913年の「私立立命館大学」設立時から定められています。では、いつから「えんじ色」がスクールカラーになったのかというと、実ははっきりと記録で見つけることはできません。つまり正式に決定したことはないまだと思われます。しかし1949年には「えんじの旗をなびかせて」と歌う応援歌「グレーター立命」が出来上がっていますから、この三十余年の間に独自のスクールカラーを目指して「えんじ色」が定着したものと思われます。

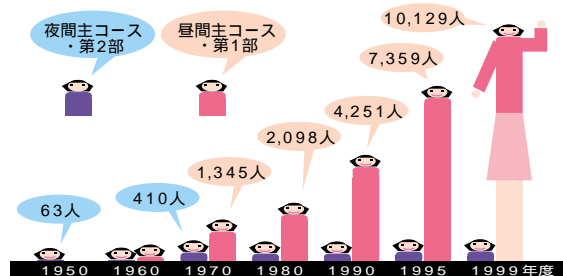
女子学生が学び始めたのはいつ頃？

ZATSUGAKU#6

入学資格から「男子」という明言規程がなくなったのは1923年（大正12）。しかし、実際に女子の入学が確認できるのは戦後、1946年度からです。立命館専門学校に1名、旧制立命館大学二部法文学部に1名、それぞれ学籍が見つかります。1948年認可の新制立命館大学には7名の女性が入学しました。当時は男子学生の無理解もあり、女子学生は大変苦労が多かったようです。

今では女性のいないキャンパス風景など考えられませんね。

立命館大学女子学生数推移（1950～1999年度）



雑学いろいろ事典

「学園歌」は、いつ誰が作ったの？

校名の由来を教えて。

ZATSUGAKU#1

立命人としての基本中の基本ですから、皆さんご存知でしょう。「立命」は『孟子』盡心章の、命ある間はひたすら修身（学問）に努めることに人生の意義があると説くくだり「ようじゆ たが殀寿たが貳たがはず、身を脩おさめて以てこれを俟まつは、命を立つる所以なり」にある言葉です。「立命館」は人がその本分を全うするための場所を意味するわけです。



ZATSUGAKU#2

図は昭和初期の広小路学舎建物配置図です。養性館・盡心館・存心館、これらの名も同じく『孟子』盡心章に由来します。

存レ其レ心、養レ其レ性、所レ以レ事レ天也。
 知レ其レ性、則レ知レ天矣。
 盡レ其レ心、者、知レ其レ性也。



それでは、校舎建物の名前は何？

ZATSUGAKU#3

作詞・明本京静、作曲・近衛秀麿の校歌「あかき血潮」は、1931年（昭和6）にできあがりしました。元は2番もあったのですが、軍国主義時代の影をひきずる内容だったので戦後は歌われなくなりました。この歌は様々に口伝えされていたため、1976年に学園として楽譜・歌詞を統一確認し、さらに1990年には正式に2番を廃止、外山雄三氏の編曲により生まれ変わりました。

応援歌は戦後、1949年（昭和24）衣笠球場竣工の直前にできたと言われていました。

学生歌の現在のものは二代目です。初代の学生歌は校歌に先立って完成しており、作詞者は土井晩翠でした。現在の学生歌の歌詞は1960年（昭和35）学園創立60周年記念事業の一環として学生から公募したもので、当時理工学部1回生だった岩崎紘久氏の作です。

寮歌の起源・作者は不詳です。ただ、2番の歌詞の一部は、江戸時代の儒学者、広瀬淡窓が詠んだ詩「桂林荘雜詠に示す」から引用されたと分かっています。この元の詩の大意は「他郷に来て、学問を辛いと嘆いてはならない。同志の友がいるではないか。朝早く外に出ると霜が雪のように降りている。さあ君は川の水を汲みたまえ、僕は薪を拾うから」というものです。寮生たちは、助け合って生きる昔の若者たちの姿に、我が身を重ねていたのでしょうか。

広小路の地下道にも「入徳門」という立派な名前があったんですね。

また、例えば衣笠の学而館の「学而」は、孔子の『論語』冒頭、学而篇からとられています。伝統的に「学問」や「習い」について説く漢文にちなんで命名しています。

一転して、BKCの建物はカタカナ名前ばかり。理工学部移転時には学生から公募して名づけました。1998年の新展開に際しては、「建物名称検討部会」が組織され、知恵をしぼりました。



わたしと立命館

学びの刺激尽きることなく はや半世紀

生まれは石川県、白山山麓の寒村です。高校進学すら珍しかった中で、「経済的には何とかが自立してみせるから、東京へ京都へ出て、大学へ行きたい」と親に打ち明けました。すると母が、「本願寺さんのある京都のほうが、過ちが少なくてよがる」と言いましてね（笑）。庶民的で親しみやすかった立命館に入学したわけです。昭和二十八年のことです。

ちょうどその年、わだつみ像が立命館に設置されました。除幕式のことを今でも鮮明に覚えています。広小路の清心館前で、私は下駄を履き、教科書ノートの風呂敷包みを抱えた姿で、像についての説明を聞いていました。ああそうか、これが平和主義・人権尊重の思想というものかと、感慨を抱きましたね。高等学校で耳にしてはいたものの、実際に肌で感じたのは初めてだったのですね。像の姿にも驚きました。男性の裸がキャンパスの真ん中に置かれたんですから。何と進んだことをする大学かと思っただけです。

講義を受けて、これも高校校までとは全然違う、大学に来て本当に良かったと感じました。細切れでなく、一つのテーマを体系的に連続して考えられるということがたいそう刺激的だったですよ。

ただ、大学とは気楽なところだとも思ったね。授業が定時の一五分後に始まり、終わりも一五分前だったりする。学生のダンスパーティーなどという呑気なものも流行っていましたしね。一方では学生運動も始まっていまし

た。当時は朝鮮戦争による特需ブームが去った後の不況下で、大学も学費値上げ、入学定員急増などで経営を支えざるを得なかったのでしょうか。たぶんそれに反対する運動だったのでしょうか。私はアルバイトに忙しくてただ眺めているだけだったけれどよね。ある朝、キャンパスが騒然としていた。誰かが存心館のペランダで演説している。それが終わるとそれまでのさわめきが唾のようになり、みんなさっさと教室へ入っていく。その一種異様な雰囲気にもまれたというか、妙に感心したというか。その後自分が職員として学生運動の波と向き合うことになるなど、この時には想像もつきませんでした（笑）。



わだつみ像建立除幕式

卒業後は、国家公務員になろうと考えていました。実は立命館には、勉強期間の腰掛けのつもりで就職したのです。

最初は理工学部事務室に配属されました。英文の卒業証明書もまだなくて、専門用語の翻訳に苦労しながら作りました。流体力学は何と言った、などとね。他にもいろいろ未整理の仕事に気がつくので忙しくなり、一つひとつ解決することに仕事にのめり込んで、公務員試験からは気持が離れていきました。昭和三十八年、学生部に移ってからはそれこそ学生諸君の生活すべてについて面倒を見ることになり、立命館に骨

を埋める決心がつかまりました。寮関係・体育会やサークル・自治会・その他個人的な事柄……。まさに何でも屋です。夜も昼も休日も関係なし。今でも京都の街を歩くと、行く先々で、あんなことがあった、こんなことがあったと思ひ出します。火事・急病・事故・自殺、いろいろありました。とにかく忙しかったです。

しかし学生を相手にしている時にはちつとも辛いとは思いませんでした。成長の速い彼らと向き合うためにはこちらも相当勉強しなければなりません。音楽のことやスポーツ、サークル運営に関しては組織論・集団論など。一晩中専門書と首つ引きで、翌朝に備えることもざらにありました。命懸けと言ってもよい程だった学生運動盛んなりし頃は、議論に必要な知識を補強し、戦後の学生運動史を調べ、という具合で、学生に採まれてありとあらゆることを学びました。

これほど様々な人間・事件に遭遇し、自分を高められる職場環境を私は有り難いと思いました。真剣になれば、大学ですら専門家も多い。そしてそれが次代を担う若者の育成につながるのですから。こんな素晴らしいことが他にありませんか？ 私は立命館との歩みに心底生き甲斐を感じて今日まで来たのです。学園全体の運営に責任を持ち、改革を推進する立場になった今でも、立ち返るべき原点はかつて学生と真摯にわたりあった日々にあると思っています。



学校法人立命館 理事長

川本 八郎さん（昭33法）

Kawamoto Hachiro 1934年石川県生まれ。58年3月立命館大学法学部卒業。4月（学）立命館に就職。73年学生課長、83年総務部長。84年常務理事。89年専務理事。95年11月理事長に就任、現在に至る。趣味は囲碁・読書。

チエロ弾きに明け暮れた学生時代
愛すべきは現在の立命館

僕が入学したのは昭和四一年です。経済・経営両学部が広小路から衣笠キヤンパスに移転して一年経ったところだったのですが、まだ正門もなかった頃で、寂しかったですね。大阪の街育ちですので、少々勝手が違いました。

どうしても立命館でなければ、というほどの気持ちは正直なところありませんでした。ただ、どうしても京都の大学へ行きたいとは思っていませんでした。神社仏閣が好きですし、河原に出れば景色も美しい。僕は風情とか趣を大切にしている人間なんですよ(笑)。

戦後の混乱から完全に立ち直って、大学進学者の数も急増していた頃です。特別勉強したいことがあるわけではなくても大学には行かなければという風潮になりました。僕は父の仕事を継ぐかどうかは別として、商売の世界で生きていきたいと前々から思っていましたから、大学は出ておかなければと、こつこつと頑張りました。

経済学部に入りましたが、マルクス経済学一辺倒だったんです。うまく言えないのですが、ああ、この大学、何か僕の感性からはちよつとずれているかなと思っただけです。それでだんだんと授業からは足が遠のいていきました。不思議に試験の成績は良かったんです。

では四年間僕が何をしていたかと言いますと、チエロを弾いてばかりいたのです。冗談で「立命館大学音楽学部卒です」と言っているくらいです。

とにかく弾いてみたたくしかたがない。交響楽団を訪ねて、「僕、チエロやりたいんです」と言ったらたんに取り囲まれ、逃がさず、となりました(笑)。

交響楽団は広小路にありましたから、衣笠から五円のスクールバスに乗ってよく出かけました。学生会館にある練習場へは、墓場の隣をすり抜けて行くんです。お化け屋敷みたいな建物で、本当に狭い大学でした。でも衣笠よりも好きでした。

交響楽をたしなむ学生といっても、他の学生たちと変わりません。立命館の学風自体がそうだったのでしょうが、豊かとか、洗練というものは縁遠くて、練習する暇もないくらいにアルバイトをしたらね。しかしその収入を楽器につき込むわけでもない。コンパのほうに流れたりということでした。学園紛争の時代で、もちろん皆が学生運動をしていたわけでもないですが、何か閉塞感のようなものがあり、それを発散させる場を探しつつ、くすぶりと爆発を繰り返していたところでしょう。

僕は、チエロにはますます没頭していきましてが、交響楽団からは次第に離れていきました。音楽に対する姿勢が違ってしまったのです。それからは他の大学の演奏会にエキストラで出演したり、気の合う仲間と室内楽をしたり。ついには宝塚歌劇団の楽団員にならないかと誘われて、商売の道との二者択一で非常に心が揺れた時期もありました。

結局、父の事業を継ぐことを決めて



スクールバス

今に至りました。僕は自分の在学当時の立命館よりも、今の立命館がずっと好きです。改革を重ねて、素晴らしくなっている。その変貌の過程に対して愛校心を感じます。一企業の経営を担う者として、機構を刷新することの重要性やその苦勞もわかるだけに、母校の心意気には感じ入り、大いに刺激も受けています。

僕の会社でも、このたび学校を設立することになりました。湘南オートモビル・ビジネス専門学校と言っています。今年四月開校です。ある意味で立命館大学に対抗できるような学校にしたいと思っています。今の大学教育を否定はしませんけれど、単なるサラーマン養成所のような大学を出ただけの人はもういらないと、これからはそうやっていくのではないのでしょうか。僕は以前の専門学校で我が社が目指す自動車ビジネスについての「実用」の事柄を徹底的に教えて、車の職人として独り立ちできた人材を採用し、即戦力にしたいのです。

方向性は異なっても、「人を育てる」という分野で母校立命館と切磋琢磨してお互い伸びていければ、こんな嬉しいことはありません。



株式会社オートボックスセブン 代表取締役社長

住野 公一さん(昭45経済)

Sumino Koichi 1948年大阪生まれ。70年立命館大学経済学部卒業。同年、大豊産業(現・オートボックスセブン)入社。74年慶應義塾大学大学院経営管理研究科(慶應ビジネススクール)修了。84年㈱オートボックスセブン取締役。94年代表取締役社長に就任。現在に至る。日本フランチャイズチェーン協会常任理事。99年より立命館大学校友会副会長。

広小路で立命文化の本質に触れ 衣笠で学生生活の楽しさを知った

このところちょっと忙しくしていましたが、一昨日、昨日は家に帰れませんでしたので(笑)。入社して間もなく一七年が過ぎようとしています。課長になってからはまだ二年ですので、毎日が勉強、ずいぶん打たれ強くもなりました。

法学部卒ですが、コンピュータシステム構築のコンサルティングという技術系の仕事をしています。お客様がコンピュータを使ってどんなことをなりたいのか、その要望を実際にシステムに整えるまでにはとても長い過程があるわけですが、そのマネジメントに携わっています。

入社当初から技術畑で、最初九年間は技術屋さんの社員教育をしておりました。でもだんだんと物作りをしたという気持ちも湧いて、自分でスタッフからラインに変わりたいと希望を出して今の部門に異動させてもらいました。中途半端で終わりがたくなかったです。思っていて、気がついたら今です。それに、質・量ともに仕事に変化があることが面白くて、続けてきました。

私の学生生活の場は、初めの二年が広小路、三・四回生の時は衣笠でした。広小路を知っている最後の世代です。京都で法律を勉強するなら立命館だと思ひ、昔からの伝統とか末川先生のお話とか、そういうものに惹かれていました。ところが入試の時は教室に女性ばかりひとりだけ(笑)。嘩然としました。あれほど男性ばかりだなんて考えもありませんでした。

一回生のクラスも、四〇名のうち女子学生は二人でした。どのクラスもこんな具合なので、友達が増えても数は少ないですね。だから初めの一年は、大学では下を向いて歩いていました。

広小路には、キャンパスに立て看板が林立して、あちこちでみんなが議論している、立命館独特の雰囲気がありましたね。私には少し距離感があって、将来を考えるにしても、法律の王道のような分野を勉強して、サークルも法律系のところに入り、公務員を目指すというのが当時の法学部生には多かったのですが、私は恐いもの見たさで民間企業を志向したりして、いわば異端児だったのかも知れません。

提灯行列をして広小路学舎とお別れした後、衣笠に移ってからは、あの「広小路型」の学生たちは一体どこへ行ったんだらう、まったく別の大学になってしまったみたい、と思うほど雰囲気が変わりました。

女子のバレーボールサークルを作るからと誘われて参加したら、俄然学生生活が楽しくなってきました。他の学部の人とも交流ができましたし、何と

大きく変えてくれ、上を向いて元気に歩けるようになりました(笑)。

でも今振り返ると「広小路型」の人たちから学んだことも多かったと思います。今の仕事はある意味でロジカルな世界です。お客様でも社内でも、人を動かすためには納得性が大切と想っている。あの議論好きで論理的な人たちと接したことがいつの間にか肥やしになって、私を助けてくれているような気がします。

これからも仕事は何らかの形で続けていきたいと思っています。でも欲張りなんです、他にもやりたいことがある。いつも時間がなくてそのうちの二つしかできませんけれども。一番の趣味は野生のイルカと泳ぐことです。仕事から全く離れて、解放感と感動を味わうことが好きです。



広小路学舎閉校祭典

言ってもゼミやサークルで本音で語る女性の友達が増えたことが嬉しかったです。ちょうどこの頃下宿生活も始めたので、当時の大学生みんなが経験したような人並みの遊びや楽しみを私も味わいました。この解放感は私を大

身者の結束はとても強くて、仲がいいですよ。本当にいろんな場面で支えていただいています。私が愛校心を感じるのは、身近な先輩後輩とのお付き合いの中で、「ああ、同じ立命文化がある」と思う時なんです。

社内での立命館出



日本電気株式会社
共通技術システム本部 第二システム技術部 プロジェクトマネージャー

竹内 美奈子 さん(昭58法)

Takeuchi Minako 1961年滋賀県生まれ。83年3月立命館大学法学部卒業、同年4月日本電気(株)入社。人材開発部を経て現部門に配属され、システムコンサルタントとして勤務。97年課長に。通産省認定プロジェクトマネージャー。

憧れていた立命館が 世界を見つめる私を育ててくれた

埼玉県で育った私ですが、学生生活は京都で送ろうと決めていました。いろいろと大学を見て歩いた時、立命館のキャンパスのさわさわと賑やかな雰囲気には好感を持ちました。同じく京都で大学時代を過ごした父親の、「立命館には面白い人が多かった」という一言も、プラスのイメージ作りにつながりました。

大学でも引き続き英語をきちんと学びたいとずっと考えていました。同時に政治などの社会科学にも興味がありましたから、これら両方の希望がかなうのは国際関係学部だろと。まずまず立命館の魅力がアップしたわけです。入学前から憧れていた大学、それが私にとっての立命館です。

国際関係学部はこぢんまりとしていて、立命館全体の雰囲気とは少し違っていたのかも知れませんが、要領のいい、いかにも現代っ子というタイプの学生が多かったです。肩に力の入った人は少なく、私自身もマイペースのんびりとした学生でした。

私はいつも「日本と世界の関係」という図式のもとで勉強していたように思います。南北問題・開発問題を勉強するゼミに入っていたのですが、最終的には「じゃあ私たちにはなにが



1999年9月、オークランドでのAPEC首脳会議打ち上げパーティーにて
(写真左から2番目)

ジ等、旅行会社に就職したんだっけ?」と思うようなこともあります。それで

できるんだろ?」という議論に発展することが多く、そのことよって自分が日本人であるということ、その日本人の私がないにできるんだろ?ということ意識するようになっていきました。三回生の夏休みに、「日米学生会議」に参加したことが、学生時代最大の経験でした。両国から学生が四〇人ずつ集まり、一カ月ほど生活を共にしながら様々なことを討論しあうのですが、妥協や中途半端は許されず、辛い場面もありました。ここで学んだのはコミュニケーションの大変さと大切さということ。この経験から違うバックグラウンドの相手を理解しようとする、国際関係という学問の意義が少し分かったような気がしています。

「なぜ外務省に入ったのですか」としばしば尋ねられます。学部で勉強したことをそのまま生かそうとした時、当時の私は国際関係機関か外務省しか思いつかなかったのです。単純です(笑)。

外務省の仕事というところ、一般的には華やかなイメージを持たれるのですが、本当は地味で裏方的な存在です。外国から招いた方の日程アレンジ

も国会や総理官邸に何度も足を運ぶうち、やっぱり外務省で働いているんだと実感が湧いてきました。外交官はほぼ何でも屋に近い仕事ですから、学びの間口を広げ、いわばゼネラリストとして巣立させてくれた国際関係学部のありがたさを感じます。

九七年一二月に行われた地球温暖化防止京都会議の仕事をしていた時には、立命館の元同級生や後輩がアルバイトで来てくれていて、大変ではありましたが、今までで一番楽しかった仕事の一つでもありました。この先もこのように京都で仕事をやる機会があればいいな、と思っています。

私は今、在ニュージーランド日本大使館に配属されて三年目を迎えますが、最初の二年間は研修のためにオタゴ大学に留学させて頂き、実際に勤務を始めたのは昨年の一月からです。近頃ようやく大使館での仕事にも慣れてきたようです。ニュージーランドについてのプロフェッショナルになることが当面の目標ですが、中・長期的には更に視野を広げてアジア・太平洋、そしてニュージーランドが重視している国際機関等、多国籍外交の分野を勉強したいと思っています。

日本中、そして世界から学生が集まっていた立命館大学で学び、様々な背景を持つ人々と友達になり、「人生何でもある」という柔軟な姿勢を身につけることができました。どんな状況下でもその時々ベストを尽くし、頑張っていけると思います。立命館で過ごした学生時代そのものが、私にとって大きな贈り物だったのです。



在ニュージーランド日本大使館
三等理事官

高橋 葉子 さん(平8国際)

Takahashi Yoko 1974年埼玉生まれ。96年3月立命館大学国際関係学部卒業。4月外務省入省。1年8ヶ月間本省に勤務の後、98年1月にニュージーランドへ渡り、留学等の研修期間を経て、99年11月より在ニュージーランド日本大使館三等理事官として勤務。総務・政務班に所属し、ニュージーランドの内政・外交問題のうち政治に関わる部分を担当している。

全国に広がるネットワーク

立命館創始130年、創立100周年を迎えて、立命館のネットワークは全国へ、世界へと広がっています。
ここでは、国内における学園展開についてご紹介いたします。

RITSUMEIKAN
NETWORK

東京オフィス（東京都中央区）

本学のネットワーク強化や就職支援等を目的として、1999年1月26日に東京駅の八重洲口近くに設置されました。現在は、社会的ネットワークの強化、「大学の総合窓口機能」、就職活動支援、校友とのネットワーク機能などを柱とした業務を行っています。

立命館慶祥中学校・高等学校（北海道江別市）

Ritsumeikan Keicho Junior / Senior High School

慶祥学園との法人合併により、1995年度に高等学校が設置されました。グローバルな視野を備えた21世紀の国際化・情報化社会のリーダーの育成、高い学力形成の基礎となる「自己学習能力」の習得、「自己表現能力」の涵養、「自己啓発能力」の養成を教育目標として、欧米・アジア6カ国に及び海外研修や約300台のコンピュータを活用した授業等を積極的に展開しています。高校3年次には、立命館大学志望コースと他大学志望コースを設定しています。スポーツクラブの室内練習場や男子寮・女子寮も設置しています。中学校（2000年4月開設）に約400名（1～3年生の概数）高等学校に約1,000名の生徒が学んでいます。教職員数は、約60名。



立命館中学校・高等学校（京都府京都市伏見区）

Ritsumeikan Junior / Senior High School

九十数年におよぶ歴史の中で「自由と清新」の建学の精神の下、21世紀の社会をリードする人材育成を目指して、「自己表現力」「英語運用能力」「情報活用能力」の伸長を3つの柱に、生徒の個性を尊重し、生きる力と学ぶ意

欲を育てる教育を展開しています。中学校3年次にニュージーランド、高校ではカナダ・ニュージーランドへといった多彩な海外研修や約250台のコンピュータを活用した情報処理授業等にも力を入れています。中学校に約640名、高等学校に約1,040名の生徒が学んでいます。教職員数は、約100名。

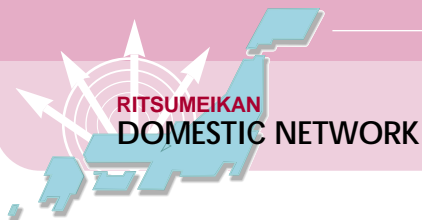


立命館宇治高等学校（京都府宇治市）

Ritsumeikan Uji Senior High School



宇治学園との法人合併により、1994年度に設置されました。高大7年一貫教育・国際化・情報化を三本柱として、学年進行につれて選択履修科目を多く配置し、多様な能力と興味・関心に応じた学習ができるように工夫されています。高校3年次に6カ国7コースに分かれて行う海外語学研修や生徒一人ひとりがホームページをつくる情報処理授業等も特色があり、情報授業は立命館大学BKCと連携して行っています。知・徳・体のバランスのとれた生徒を育てるため、正課の授業だけでなく、課外活動に多くの生徒が積極的に参加することを奨励しています。立命館アジア太平洋大学進学を目指すコースも設置しています。生徒寮FIRITS HOUSEも設置しています。約1,500名の生徒が学んでいます。教職員数は、約100名。



立命館アジア太平洋大学 (大分県別府市)

Ritsumeikan Asia Pacific University



2000年4月開学の立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を理念とし、アジア太平洋学部とアジア太平洋マネジメント学部の2学部を設置しています。世界約50ヶ国・地域からの留学生と日本人学生（各50%）約3,200名（完成年度）が共に学んでいます。教職員数は約110名です。立命館大学との間で、様々な交流を行います。



大阪オフィス (大阪府大阪市中央区)

本学のネットワーク強化や就職支援等を目的として、1995年より設置され、現在大阪北浜に事務所を構えています。現在は、社会的ネットワークの強化・リエゾン活動、「大学の総合窓口機能」の発揮、就職活動支援、けいはんなセンター研究活動支援、Rits OGサークル事務局機能、大阪オフィス講座をはじめとする諸講座の展開などを柱とした業務を行っています。

DOMESTIC

立命館大学衣笠キャンパス (京都府京都市北区)

Ritsumeikan University Kinugasa Campus

学問と文化・芸術のまち京都の西北に位置する「衣笠キャンパス」は、法学部、産業社会学部、国際関係学部、政策科学部、文学部を擁し、人文科学・社会科学の一大拠点となっています。約17,000名の学生が学んでいます。



立命館大学びわこ・くさつキャンパス (滋賀県草津市)

Ritsumeikan University Biwako-Kusatsu Campus

琵琶湖の南東、滋賀県が整備を進める「びわこ文化公園都市」の一角にある「びわこ・くさつキャンパス」は、経済学部、経営学部、理工学部を擁し、文理融合型キャンパスとして、産官学連携による研究も盛んに行われています。約15,000名の学生が学んでいます。



世界に広がるネットワーク

本学は、世界24ヶ国・地域、89大学・研究機関と協力・協定関係を結んでおり、毎年多くの教員・学生が協定に基く相互交流の中で、研究活動や留学生活を行っています。(2000年1月31日現在)

北米

アメリカ合衆国
 アメリカン大学
 イリノイ・カレッジ
 ハワイ大学
 オクラホマ大学
 ビッツバーグ大学
 南カリフォルニア大学
 レンスラー工科大学
 APSIA (国際関係学全米大学院連合)
 バンダービルト大学
 ジョージア工科大学

カナダ

オカナガン・ユニバーシティ・カレッジ
 プリティッシュ・コロンビア大学

中南米

メキシコ
 イベロアメリカーナ大学

ベルー

ベルー学術外交院
 ベルーカトリック大学
 経営大学院大学
 リマ大学
 ベルー国立農業大学
 ベルー国立工科大学
 パシフィック大学
 ベルー大学カイエタノ・エレディア

オセアニア

オーストラリア
 マコーリー大学
 メルボルン大学

ニュージーランド
 ヴィクトリア大学
 アジア2000年財団

プリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)

立命館大学とカナダ・バンクーバーにあるプリティッシュ・コロンビア大学 (以下UBC) は、共同で「ジョイント・プログラム」を開発しました。毎年100名の学生を8ヶ月間、UBCに派遣しています。言語教育科目、カナダ研究、コア科目 (環太平洋研究・異文化間コミュニケーション) を受講し、



一定基準を満たす場合にはUBCの正規科目を選択履修することもできます。参加学生には、学力、言語運用能力の向上とともに、カナダでの生活を通じた全人格的発展を遂げるための機会を提供しています。

University of British Columbia



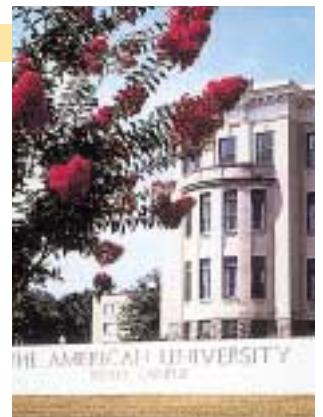
アメリカン大学 (アメリカ合衆国)

本学の国際化の一段と高いレベルを目指したプログラムとして、1994年度よりアメリカ合衆国のワシントンD.C.にあるアメリカン大学との間で「共同学位プログラム」を発足させ、これまで100名以上の学生を各2学年間、アメリカン大学に派遣してきました。専門分野における学習を積み重ねて、最短4年間で立命館大学とアメリカン大学の二つの大学の学



American University

士学位を取得することができます。このプログラム参加者は、日米双方の学問的な土壌にたつて専門的な学識を深めることになります。さらに大学院共同学位プログラムでは、双方最大10名までの院生を1年間派遣しています。





立命館学園の協定大学・機関

ヨーロッパ

英国
エジンバラ大学
サセックス大学
ウォーリック大学

ドイツ
ベルリン・フンボルト大学
チュービンゲン大学
フライブルク大学

フランス
ボルドー政治学院
トゥールーズ第一社会科学大学
トゥール経営大学院大学
パリ第一大学
トゥールーズ・ル・ミラーユ大学

ギリシャ
アテネ大学

ポーランド
ポーランド科学アカデミー・
社会科学部

ロシア連邦
ロシア科学アカデミー・
東洋学研究所

アフリカ

ケニヤ
ジョモ・ケニヤッタ農工大学

アジア

韓国
梨花女子大学
高麗大学
慶熙大学
釜山大学
ソウル大学
蔚山大学
延世大学

中国
香港中文大学
東北財経大学
華東師範大学
復旦大学
吉林大学
南京大学
南開大学
同済大学
北京大学
清華大学
中山大學
上海社会科学院

台湾
国立政治大学
国立台湾師範大学
中央研究院

マレーシア
マラヤ大学
マレーシア戦略国際問題研究所

シンガポール
ナンヤン工科大学
シンガポール国立大学

インドネシア
アングラス大学
ガジャマダ大学
インドネシア大学
西スマトラ州政府
バンドン工科大学

タイ
サイアム大学
タマサート大学
タイ国立開発行政研究院

フィリピン
アテネオ・デ・マニラ大学
デ・ラ・サール大学
アジア太平洋大学
フィリピン国立大学

ベトナム
ハノイ工科大学
フエ大学
ハノイ国家大学
ホーチミン市国家大学
ホーチミン市工科大学
ベトナム教育訓練省

インド
インド国立外国語大学
ジャワハラル・ネルー大学
デリー大学
マドラス大学

スリランカ
コロポ大学



【インドネシア事務所】

立命館アジア太平洋大学の設立に向けて、インドネシアのジャカルタに設置された海外事務所。現地の留学希望者・高校・教育機関等への情報提供や協力関係の構築等を行っています。

【韓国事務所】

立命館アジア太平洋大学の設立に向けて、韓国のソウルに設置された海外事務所。協定高校の組織化、アドバイザーコミッティの組織化、政府系機関等とのネットワーク強化、留学生への情報提供・サポート、卒業生との連携等を行っています。

RITSUMEIKAN
GLOBAL NETWORK



いよいよ別府での盛大な集いの日が近づいてまいりました。
校友の皆様、奮ってご参加下さい。



音響熟成 黒糖焼酎「れんと」

100周年記念校友会コンサート・大交流会準備すすむ!!

別府公園で行われる100周年記念校友会コンサートは、校友の杉田二郎さん、ばんばひろふみさん、また友情出演の小室等さんらによる大野外コンサートですが、会場内の模擬店には立命館アジア太平洋大学・立命館大学の学生、地元団体による模擬店に加え、「ゆふいんビール」のゆふいん山水館（大分県校友会）「れんと」の奄美大島開運酒造（鹿児島県校友会）など校友のお店も多数出店予定です。



ゆふいん麦酒館



ゆふいん麦酒館

創立100周年記念式典 & 度全国校友大会のご案内

記念式典 & 校友大会の
お問い合わせ先
立命館大学校友会事務局
(校友課)

Tel. 075 (465) 8120
Fax. 075 (465) 8125

「式典参加ツアー」を用意しました!

式典へ参加される校友に対し、校友会本部では、交通費の一部援助を含めた「式典参加ツアー」を用意しました。

東京（羽田空港）、名古屋（名古屋空港）、大阪（伊丹・関西空港）の各空港からの航空機利用ツアー、新幹線およびJR利用のツアー、さらに貸し切り送迎バス利用のツアーなど各種のツアー（5月20日出発で1泊2日が基本行程）を用意しています。なお、これらの式典参加ツアーについては、事前に各県校友会を通じて校友会本部へ参加登録をしていただいた場合、一定の範囲で交通費の援助を行います。

利用予定ホテルは、「ホテル清風」「おにやまホテル」「花菱ホテル」「杉乃井ホテル（本館・HANA館）」「ゆふいん山水館」の予定です（宿泊のみの受付も可能です）。

また、地獄巡り、国東半島探訪などのオプションツアーも別経費で用意していますので、詳細は下記へお問い合わせ下さい。

式典参加に関する旅行のお問い合わせ・資料請求先

JTB（日本交通公社）国際旅行西日本営業部

担当：吉田・香月・若林

Tel. 06(6345)2820 Fax. 06(6345)2810



ばんばひろふみさん（校友会コンサート出演）

2000年度全国校友大会スケジュール

2000年5月20日(土)

入場無料

12:00	開場	市民と 大学でつくる イベント
12:30		
13:00		別府公園
13:30		ネットアート製作 TVで人気のチュー ヤンの司会により、 地元幼稚園児500名 が、アジアをテーマ にした巨大アートを 製作。
14:00	創始130年・ 創立100周年記念式典 APU開学式典	
14:30	ビーコンプラザ/ コンベンションホール	立命館大学・ APU学生による イベント
15:00	校友大会	応援団、軽音楽部、 バトントワリングサ ークルなど。 アジアの料理を味わ える屋台など、美味 しい企画も盛りたく さん。
15:30	父母教育 後援会総会	
16:00	ビーコンプラザ/ コンベンションホール 伍芳さんの中国古筝演奏 大野実佐子さん・和太鼓祭衆による民謡ステージ	
16:30	100周年記念 校友会コンサート	
17:00	別府公園野外ステージ	
17:30	小室等さん、杉田二郎さん、 ばんばひろふみさんなどによる 野外コンサート。	
18:00		



小室等さん
(校友会コンサート友情出演)

大野実佐子さん
(校友大会出演)



和太鼓祭衆 (校友大会出演)

5月20日は
共に別府で!

立命館学園

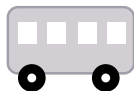
2000年



杉田二郎さん
(校友会コンサート出演)



伍芳さん (校友大会出演)



立命館アジア太平洋大学 (APU) のキャンパス公開

別府公園からAPUへ、シャトルバスを運行しますのでご利用下さい。

鳥取県東部校友会

Report from East Tottori

去る一月二日(金)に、約七〇名参加のもとに開催された平成一一年度総会は、近年になく盛り上がりつつ集いとなりました。一番の勝因は、若い会員が誘い合わせて数多く参加してくれたこと。やはり若さに勝る活力はありません。また、立命の元留学生で、現在鳥取市国際交流員としてドイツから派遣されているダルス・キーパーさんとリンク・ビルギットさんが飛び入りで参加。父と娘の二代で出席の西村さん親子、NHK鳥取放送局の山下アナウンサー(平6法)の出席など話題も多彩。そして、二度目の出演となる民謡歌手の大野実佐子さんのステージは、今回も総会に華を添えてくれました。



当校友会の総会は、各学部が輪番で幹事を担当し、趣向を競い合います。毎年の総会日時も一月の第一金曜日と決められています。若い会員の斬新なアイデアを取り入れながら、ともかく楽しく、肩の凝らない運営を目指しています。今年には会員名簿改訂の年、年二回のゴルフコンペ、関六野球大会、会報の発行などを通じて、母校立命館の発展に負けない校友会づくりを展開してまいります。

〔昭46経営 西垣佳則・記〕

茨城県校友会

Report from Ibaraki

昨年一月一四日(日)、移転したばかりの新しい茨城新県庁舎を隣に臨む、茨城県開発公社ビル会議室に於いて、学園・校友会から中川前産業社会学部長をはじめ役員の方々、近隣都県校友会長のご参加をいただき、平成一一年度総会が開催されました。



新調された茨城県校友会旗の贈呈に始まった総会の後、中川前産業社会学部長から大学の近況報告をいただきました。立命館アジア・太平洋大学の開学等、母校の教育環境の整備、新制度の導入等の報告は、その後の懇親会においてもやはり話題の中心となり、果ては校友それぞれが通っていたころの母校の様子や当時の学生生活話に花を咲かせるなど、懇親会が大変和やかにとり行われる結果となりました。

佐賀県校友会

Report from Saga

平成一一年度の総会と懇親会は、一月二〇日(土)に、校友が勤務していることで恒例となったホテルニューオータニ佐賀で開催しました。総会には久岡校友会副会長と志垣校友課長にご出席いただき、学園の近況報告をしていただきました。そして、中島会長からは立命館学園創立一〇〇周年記念募金への一層の協力依頼や、五月に別府で開催される校友大会への参加の呼びかけが行われました。そして新調された佐賀県校友会旗が会長に贈呈され、会場に掲揚されました。

懇親会には五〇名の校友が集いました。久しぶりに女性六名が出席し、初めて参加した校友の自己紹介など、お互いに校友の絆を深め、和気藹々と楽しい一時を過ごしました。また恒例となった二次会でも盛り上がり、当会では三年ぶりに校友会名簿を作成しました。見やすくするとともに索引も容易にできるように刷新しました。七回目を数える「佐賀県青春歌祭」には初回から参加しており、また同志社大学OBとの年二回のゴルフコンペも継続して親交をあためております。

〔昭38法 西村邦彦・記〕

交響楽団OB会

Report from Symphony Orchestra

一月三日、立響OB会では年次幹事会を開催し、新会長に山本安弘氏(昭35経済)を内定した。この会長選任は前会長仁井田邦夫氏(昭33理工)の逝去に伴って実施されたものである。故仁井田氏は立響OB会創立以来、二〇年以上にわたり会長職を務められ、現役の指導・支援やOBとの交流促進に尽力された。七〇〇名を超える大所帯である立響OB会のこれまでの円滑な運営は、氏のリーダーシップによるところが大きい。心から哀悼の意を表したい。

さて、当OB会は、一月二五日に大分市にて現役学生が開催した「立命館アジア太平洋大学開学記念特別演奏会」にあたり、四〇万円を援助した。開学という記念すべき演奏会の支援にOB会はこれまで以上に力を入れ、出演者としても参加するなど、一層絆を深めたものである。

また、大分で特別演奏会を開催するにあたり津崎雅久様(昭51理工)をはじめ、校友会の皆様には各方面で多大なご協力ご援助いただきましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

〔昭53産社 武友映次・記〕

学園創立100周年 記念募金

(立命館アジア太平洋大学正門募金)

約半年間の取り組みで 1億円を突破!!

昨年夏から取り組まれた校友会の100周年記念募金は、極めて期間の限られた取り組みであったにもかかわらず、約5,200人の校友の参加で既に申込額が1億円を超え、その殆どが入金されました。

今回の募金活動は、個人や企業から大口の募金を得ることで目標額の達成を目指すのではなく、多数の校友に参加していただくことを第一の目的として取り組みました。

その結果、経済情勢の厳しい昨今、また様々な募金活動がなお継続されている時期であるにもかかわらず、母校の発展、後輩の活躍を願う校友個人の熱い志が、立命館の未来を開くアジア太平洋大学の正門の形となって顕れました(なお、教職員についても約300名が参加し620万円余の募金が行われました)。心から深く御礼を申し上げます。次第です。

去る2月25日の校友会幹事会で、河原四郎会長から川本八郎理事長に、立命館アジア太平洋大学の正門建設費としての目録を贈呈いたしました。

校友会本部としては、この力を校友相互の活躍を励まし合う校友会活動のいっそうの活性化に結びつけるため、「学園創立100周年、立命館アジア太平洋大学開学記念、大分・別府校友大会」の成功を目指します。



今回は女性五名を含め、若い校友の参加が目立った。懇親会での話題の中心はやはり「立命館アジア太平洋大学」で、期待と感心の程が伺われた。

さて、校友の皆さんが時折立ち寄るのが、校友の仙石賢佑さん(昭45産社)がオーナーの居酒屋「樽」。手頃な値段と人柄を慕って集まるファンも多く、意外な校友とはったり鉢合わせすることも珍しくない。大学関係者も出張などで来仙の折よく利用しているようである。

〔昭37法 大沼久明・記〕

宮城県校友会

Report from Miyagi

第二回となる平成二一年度総会・懇親会は、一月十七日、仙台東急ホテルに於いて約五〇名が出席し開催された。

第一部の総会議事終了後に、大学・校友会本部を代表して、千代田経営学部部長・安田校友会財務委員長より大学の近況や立命館アジア太平洋大学に関する報告がなされた。また、支部名称変更に伴い、宮城県校友会旗が逸見会長に贈呈され、直ちに掲揚された。

第一部の懇親会では、初参加者の紹介に続き、今年から始めたビンゴゲームが会場を沸かせた。景品は「カレイ縁側缶詰セット」「ボーショレスノーボー」「笹かまセット」「カーデニング用衣料セット」等の豪華版で、全員もれなく当たるよう工夫した。景品は全部、校友の方々のご厚意で無償で提供していただいた。

その他、今回は新県庁舎の展望ロビーに集まり、県都水戸の町並みやその奥に広がる太平洋や奥久慈、筑波の山並み等茨城の風景を堪能する等のイベントも行いました。

最後に校友一同が立命館大学の益々の発展を祈りつつ、名残を惜しみながら閉会のはこびとなりました。

〔平9法 宇佐美智也・記〕

広島県東部校友会

Report from East Hiroshima

平成二一年度広島県東部校友会の総会・懇親会は、一月三日(祝)福山グランドホテルで開催され、女性や若々しい平成卒校友を含む六八名が参加し、一年ぶりに旧交をあたためた。総会においては、学園創立一〇〇周年記念事業への募金に東部校友会として拠出したことの報告が明石幹事よりあり、更に当日にも相応の額が集まり、後日本部に送らせていただいた。

懇親会は、島田・桜井女史の司会により、今回も和やかな中に進められた。中でも各世代代表による、物知りクイズ大会(写真)は、学生時代のこと、京都にまつわることや、不意をつかれた質問もあり、登壇者がタジタジとなり爆笑も起こり、時間の経つのも忘れるほどであった。最後にグレイター立命を唄い、来年の再会を誓い閉会となった。



通常の活動は、単独・同立・関関同立戦(平成二一年度は立命館が団体優勝)といったゴルフ大会が主となっているが、平成二一年度からは関関同立合同の忘年会が開催され、出身校の垣根を越えて相集い語り合う交流の場が更に広がって来たようである。

当地区在住一〇〇余名の校友がそれぞれの場に集い、お互いの人生のページに校友会活動があればと願うところである。

〔昭43経済 小田正己・記〕

立命館 ファミリーカードコーナー Family Card

いあーん

株式会社クレオテック
代表取締役 廣近直樹

立命館学園創立一〇〇周年という記念すべき年にあたり、校友の皆様と学園を結ぶ唯一の情報メディアである校友会誌「りつめい」の創刊二〇〇号発行を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

株式会社クレオテックは、一九九三年六月に立命館学園の教育・研究を側面から支援、発展させるため学校法人立命館の出資を受けて誕生しました。当社は、立命館学園との強い連携をバックボーンとして、教育関連事業を積極的に展開することにより、学園の理想とする教育・研究にふさわしい環境づくりを側面から支援させていただいております。現在、教育用・事務用の機器備品の販売・リース、学園の各キャンパスにおけるメンテナンズ事業、立命館大生への住居の紹介・斡旋、立命館ファミリーカード事業、立命館グッズの開発・販売事業など学園の教育関連事業を多面的に行っております。また、立命館ファミリーカード事業におきましては、提携手数料の二〇%を立命館奨学金として還元させていただくなど学園の発展に少しでもお役に立てるよう事業に取り組んでおります。

今後とも、当社は学園の発展に貢献できる事業を積極的に展開するとともに、「りつめい」の立命館ファミリーカードコーナーの紙面をとおして校友の皆様とのネットワークを広げてまいりたいと存じますので、立命館ファミリーカード事業、立命館グッズの開発・販売事業に対する、校友の皆様より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

立命館ファミリーカードコーナー

立命館ファミリーカード会員募集!

「立命館ファミリーカード」はオール立命館のネットワーク作り的一端を担い、校友・学生・教職員相互の、また皆さま方と学園の絆をより一層緊密なものとするを目的として発行されました。すでに多くの皆さまが会員となっております。

カード特典

ファミリーカード優待店での優待サービス

立命館オリジナルグッズの特別割引
JCB、VISAのカードサービスもそれぞれご利用になれます

入会や切替について、また優待店加盟のお申し込みについては、当社までお問い合わせ下さい。

株式会社クレオテック

〒603-8353

京都市北区平野上八丁柳町 28

TEL. 075(463)9197

FAX. 075(465)5697

優待店からのお知らせ

ときめきの宿 **ふるさとネット** Tel. 0725 - 56 - 2480

下記の宿が12年4月1日より入会します

民宿 亀の井

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町朝日4-73

Tel. 0735 - 52 - 0642

那智山、紀伊勝浦、串本など南紀観光のベース。

本場のマグロ料理が味わえます。

1泊2食8000円より(税別・サ無)

JR紀伊勝浦駅より徒歩5分。

いかだや

兵庫県津名郡淡路町岩屋1402

Tel. 0799 - 72 - 2279

宿から明石大橋が望め、特に4階の温泉展望風呂からの眺めはすばらしい。舟盛料理、宝楽焼のほか夕コ料理も味わえます。

1泊2食10000円より(税別・サ無)

淡路島岩屋港より徒歩7分。

茶梅

愛媛県那智郡大三島町宮浦5467

Tel. 0897 - 82 - 0008

大山祇神社参道に位置し、しまなみ街道散策のベース。瀬戸内の幸をふんだんに使った気取らない料理が好評。

1泊2食12000円より(税別・サ別)

大三島宮浦港から徒歩10分。



次の宿が平成12年3月31日をもって退会します

のざき

滋賀県高島郡マキノ町石庭356

ニューはまぐち屋

三重県度会郡南勢町磯浦

Family Card

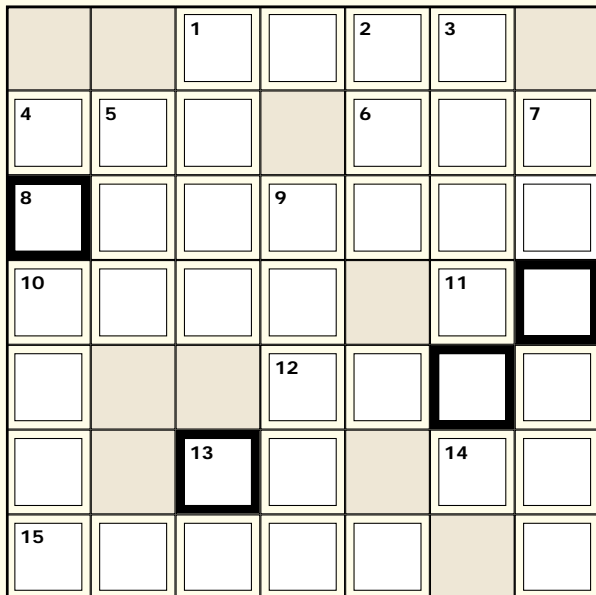
当たる？

当たる!!

クロスワードパズル

CROSSWORD PAZZLE

抽選で正解者20名様にオリジナル風呂敷を差し上げます。



の中に入る言葉は？

ヒント

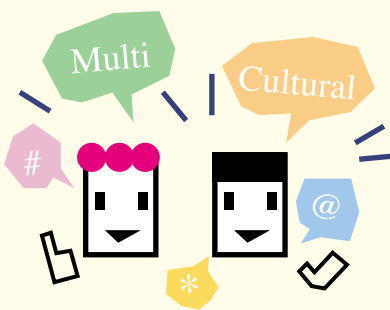
APUC (立命館アジア太平洋大学)は国際的なキャンパスです。

タテのヒント

- 1 紅海、スエズ運河によってアジアと、地中海を隔ててヨーロッパと接する大陸。
- 2 大きな手柄のこと。
- 3 互いにわかりあうこと。
- 4 景気低迷が続き、市場では連日が伝えられています。
- 5 ウィリアムテルは矢で射抜きました。
- 7 悩みなどを聞き、相談に乗ることを専門に行う人のこと。
- 9 雪のために、闇夜が薄明るく見えること。
- 13 ソ連の物理学者。1958年ノーベル物理学賞受賞。

ヨコのヒント

- 1 荒い波が打ち寄せる場所をなんと言うでしょう。
- 4 マホメットの後継者。回教国の最高の支配者のことです。
- 6 「あかき血潮 胸に満ちて」の歌詞ではじまるのは、立命館大学の ことです。
- 8 文系・理系の垣根を越えた型の研究が求められています。
- 10 江戸時代のタクシードライバーと言える職業です。
- 11 記号P、原子番号15の非金属元素です。骨や歯に含まれています。
- 12 罪人の足にはめて、自由を奪った刑具の名称ですが、ハンディキャップの意味としても使われています。
- 13 「トンビが を産む」などと、非凡な子どもを持つ平凡な親のことを言います。
- 14 刺を現すことばです。 草などと、刺のある草を総称します。
- 15 モスクワにある帝政時代の宮殿です。



ハガキでご応募ください。

正解者の中から抽選で20名様に、オリジナル風呂敷 (RITS マーク入り) を差し上げます。

応募方法
 官製ハガキに
 住所 電話番号 氏名 年齢 クイズの答え
 を明記の上、右記までお送りください。
 4月末消印有効

応募先
 〒603-8353 京都市北区平野上八丁柳町28 立命館大学
 (株)クレオテック
 「立命館ファミリーカードクロスワードパズル」係

Campus Topics

キャンパス トピックス

理工学研究所主催「第2回ノーベルフォーラム」開催 (1999.11.16)

BKCにおいて、本学理工学研究所主催、理工学振興会協賛による第2回ノーベルフォーラム(秋季学術講演会)が開催された。カリフォルニア工科大学のドルフ・マーカス教授(1992年ノーベル化学賞受賞)による講演「Electron Transfer Reactions in Chemistry and Biology: History and Future」、マックス・プランク生物化学研究所のロベルト・フーパー所長(1988年ノーベル化学賞受賞)による講演「Proteins, Molecules of Life at the Interface of Physics, Chemistry, and Biology」および両教授と大瀧仁志教授(理工学研究所長)による鼎談「The Way to The Nobel Prize」が行なわれた。



「秋季全国父母教育懇談会」開催

(1999.11.20)

両キャンパスにおいて、「秋季全国父母教育懇談会」が開催され、1200名の父母の参加があった。午前中は3回生父母を対象とした「進路・就職説明懇談会」、引き続き松下電器産業株式会社人事部長

用担当部長・鍛冶倉巧氏(衣笠)・ソニー株式会社人事センター採用部総括部長・岸本治氏(BKC)による「企業の求める人材像」という講演が行われた。午後からの学部別懇談会では、学部教育の現状と展望、学生生活や就職活動の体験談等について、その後回生や学科・専攻に分かれてグループ別懇談会が行われた。翌日には、「アカデミック京都ウォッチング」を開催し、700名の父母が秋晴れの京都・滋賀を観光・散策した。



公開シンポジウム「ベンチャービジネスの構想力」開催 (1999.11.25)

滋賀県大津市びわ湖ホールにおいて、本学と滋賀県産業支援プラザおよび滋賀銀行の共催による公開シンポジウム「ベンチャービジネスの構想力」が開かれた。高知工科大学・水野博之教授、株式会社滋賀銀行・高田紘一頭取、作家・立石泰則氏、株式会社アスキー・西和彦取締役を迎え、本学経営学部・奥村陽一教授がコーディネーターとなり、活発な討論が行われた。討論では、新しいビジネスを構想する手がかりとして地域に着目すること、とりわけ産学協同をベースとして地域のニーズをとらえることに可能性が見出せる、等の指摘が行われた。



経済学部女子就職プロジェクト企画「きりひらこう! 新たな時代! 夢をつかんだ先輩から貴女へのエール」 (1999.12.3)
経済学部就職企画「Welcome to the Wall Street!!」
外資系金融業界への道」開催 (1999.12.10)

12月3日(金)、BKCにおいて第6回女子就職プロジェクト「きりひらこう! 新たな時代! 夢をつかんだ先輩から貴女へのエール」が開催された。プロジェクトでは、これまで女子学生が職業観やライフプランを築くきっかけとなることを目的に、学習会やOGアンケートの実施などの取り組みを進めてきた。今回は、北海道情報大学経営情報学部の加藤喜久子助教による「スウェーデンにおける女性の雇用環境」の講演、公務員・金融・メーカーの各分野で活躍中の本学OG3名を招いたパネルディスカッションが行われた。



また、12月10日(金)には、講演会「Welcome to the Wall Street!!」外資系金融業界への道」が開催された。経済学部では、毎年就職企画として、OBや民間企業の人事担当者を招いた講演会を実施しており、今回は、「外資系金融業界の動向と求められる人材像」をテーマに、本学部OB(90年度卒)でCITIB



また、12月10日(金)には、講演会「Welcome to the Wall Street!!」外資系金融業界への道」が開催された。経済学部では、毎年就職企画として、OBや民間企業の人事担当者を招いた講演会を実施しており、今回は、「外資系金融業界の動向と求められる人材像」をテーマに、本学部OB(90年度卒)でCITIB

ANK国際金融本部外国為替部の和田仁志氏とメリルリンチ日本証券人事部マネージャー高松章氏を迎えて、経済学部井澤裕司教授のコーディネートのもと、金融ビッグバンとグローバル化を背景にした金融業界の動向や、求められる人材像の変化などについて、パネルディスカッションが行われた。

両キャンパスで「不戦のつどい」開催
(1999.12.6、12.8)

12月6日(月)にBKCで「第2回BKC不戦のつどい(平和の母子像前集会)」、8日(水)に衣笠キャンパスで「第46回不戦のつどい(わだつみ像前集会)」を開催した。

この集会は、「六者共闘」(学内の一部学友会、二部学友会、院生協議会、教職員組合、生活協同組合、生協労働組合で構成)の代表で構成する「不戦のつどい」実行委員会の主催で1954年以降毎年開催しており、今年で46回目を迎えた。各学園構成パートおよび理事会より、BKCでは80名、衣笠では130名が参列した。まず参列者全員で黙禱し、続いて主催者代表として学友会、理事会の代表者がそれぞれ挨拶を述べた。その後、各構成パート代表者による献花が行われた。



なお、各当日の夕方に、「平和こそ人類の英知」をテーマとする企画として、安齋育郎教授、藤岡博教授、学生代表によるパネルディスカッション「なぜ、今、核問題!!」(BKC)、奥平康弘氏(東京大学名誉教授)による講演「今、憲法を語る意味」(衣笠)が開催された。

国際平和ミュージアムに「無言館コーナー」開設
(1999.12.8)

12月8日(水)、立命館大学国際平和ミュージアム常設展に、戦没画学生生の絵画の収集で知られる美術館

「無言館」(長野県・上田市)の作品の一部を展示するコーナーが新設された。開設式では

お祝いに駆けつけた世界的ヴァイオリニスト天満敦子さんが飛び入り参加し、ストラビバリウスで奏でる「望郷のパレード」が響きわたった。その後、長田総長、無言館の館主・窪島誠一郎氏や、名譽館友で作家の水上勉氏(窪島館主の父)の挨拶を受け、学園功労表彰者中野信夫氏も同席してテープがカットされた。



BKC3学部公助連共同企画シンポジウム「21世紀に向けた草津の街づくり」開催
(1999.12.13)

BKCにおいて、経済・経営・理工学部公助連共同企画シンポジウム「21世紀に向けた草津の街づくり」が開催された。



経済・経営学部生と理工学研究科生が、正課や課外活動での研究成果を5つのテーマで発表した。内容は、住民への訪問アンケートなどによる草津市の健康スपोर्ट行政に関する考察、学生の南草津に対する要望の分析

から、本学と南草津駅を結ぶ循環バス運行の提案、草津商店街の空き店舗を利用した、学生による喫茶店運営についての報告、歴史的雰囲気を感じさせる町並み整備による地域活性化の提言、ボランティア活動の評価軸として行政機関が発行する地域通貨「おうみ」の取り組みの紹介と今後の展望であった。

アート・リサーチセンター「京都の至芸鑑賞会 戦前の都をどり」を開催
(1999.12.18)

中野記念ホールにおいて、京都の至芸鑑賞会「戦前の都をどり」を開催した。

本鑑賞会は、ARCが取り組む京舞井上流の貴重映像復原の成果を公開するもので、今年で3回目を迎える。今年5月京都新聞掲載の、昭和12年都をどりの映像が当時長唄師匠であった稀音家六惣次師のご遺族宅より発見されたという記事を受け、それを拝借するとともに片山家能楽保存財団所蔵のものを調査したところ、昭和8年から14年までの戦前の都をどりの映像が揃って見られるようになった。



鑑賞会は井上三干子氏の実演「門松」で幕を開け、京都橘女子大学教授猪熊兼勝氏に講演「都をどりの歴史」をお願いした。映像鑑賞は、猪熊兼勝氏・井上三干子氏・小山富紀子氏による座談会形式で行われた。本学OB大西氏より拝借の昭和14年都をどりの音声も、内容理解の一助となった。

なお、「都をどり資料展」を同時開催し、当時の番組等を紹介したことも好評であった。



ますますの ご健康とご活躍を!

1999年度で定年退職された教職員をご紹介します、感謝の意を表したいと思います。

(紙面の都合上、経歴は大学教員のみ紹介します。敬称略。)

元経済学部部長・理事 経済学部教授

坂野光俊(さかのみつとし)

- 一九三四年八月二日生まれ
- 一九五八年三月 京都大学経済学部卒業
- 一九六三年三月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 一九六六年三月 同博士課程単位取得退学
- 一九六九年四月 本学経済学部専任講師
- 一九六九年一〇月 同助教授
- 一九七五年四月 同教授

- * 経済学部部長・理事、人文科学研究所長等を歴任
- * 専門は財政学、研究テーマは日・米・独の財政政策の協調と対立

経営学部教授

荒川宜三(あらかわよしぞう)

- 一九三四年九月六日生まれ
- 一九五八年三月 京都大学経済学部卒業
- 大和銀行取締役調査部長、株式会社大和銀行総合研究所専務取締役を経て
- 一九九五年四月 本学経営学部教授
- * 専門は金融論・金融機関論、研究テーマは日本の金融機関に対する三つの規制の緩和、自由化の歴史の研究

経営学部教授

永尾正章(ながおまさあき)

- 一九三四年八月二日生まれ
- 一九五七年三月 京都大学法学部卒業
- 日本貿易振興会海外経済情報センター海外調査部長、総務部長、理事を経て
- 一九九四年四月 本学経営学部教授
- * 社会システム研究所長、衣笠リエソンオフィス室長等を歴任
- * 専門は国際経営論、研究テーマは戦後日本の経済発展と貿易・海外投資・企業経営国際化の進展

元理事・評議員 産業社会学部教授

鈴木良(すずきりょう)

- 一九三四年九月二日生まれ
- 一九五七年三月 京都大学文学部卒業
- 一九六三年三月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 奈良女子大学文学部附属中学・高校教諭を経て

- 一九八五年四月 本学産業社会学部教授
- * 理事・評議員、調査委員長等を歴任
- * 専門は社会史、研究テーマは近代日本社会の諸問題を社会史的的手法で分析すること

国際関係学部教授

西川長夫(にしかわながお)

- 一九三四年五月一日生まれ
- 一九六〇年三月 京都大学文学部卒業
- 一九六五年三月 京都大学大学院文学研究科修士課程単位取得退学
- 京都大学文学部助手を経て
- 一九六六年一〇月 本学文学部専任講師
- 一九六九年一〇月 同助教授
- 一九七四年四月 同教授
- 一九八八年四月 本学国際関係学部教授
- * 国際言語文化研究所長、研究委員長等を歴任
- * 専門は比較史・比較文化論、研究テーマは国民国家時代の文化とイデオロギイの比較研究

元政策科学部部長・理事 政策科学部教授

柴田弘文(しばたひろふみ)

- 一九二九年九月二日生まれ
- 一九五三年三月 神戸経済大学(現神戸大学)卒業
- 一九六二年九月 カナダ・マックギルル大学大学院修士課程修了
- 一九六五年五月 米國・コロンビア大学大学院博士課程修了
- 大蔵事務官、カナダ・クイーンズ大学助教、英官・ヨーク大学準教授、同教授、米國・ケンタッキー大学教授、大阪大学教授を経て
- 一九九三年四月 本学経済学部教授
- 一九九四年四月 本学政策科学部教授

- * 政策科学部長・理事等を歴任
- * 専門は公共経済学、研究テーマは公共部門における効率的資源配分(環境政策を含む)と社会的意思決定の研究

元法学部部長・理事 政策科学部教授

田村悦一(たむらよしかず)

- 一九三五年三月二日生まれ
- 一九五七年三月 京都大学法学部卒業
- 一九五九年三月 京都大学大学院法学研究科修士課程修了

岡山大学助手を経て

- 一九六一年一〇月 本学法学部専任講師
- 一九六三年四月 同助教授
- 一九七〇年四月 同教授
- 一九九六年四月 本学政策科学部教授

* 法学部長・理事、地域研究室長等を歴任

* 専門は行政法・公法、研究テーマは現代行政における行政権の拡大と国民・住民の権利保護

政策科学部教授

宮本憲一(みやもとけんいち)

- 一九三〇年二月九日生まれ
- 一九五三年三月 名古屋大学経済学部卒業
- 金沢大学助教授、大阪市立大学助教授、同教授を経て
- 一九九三年四月 本学産業社会学部教授
- 一九九四年四月 本学政策科学部教授

- * 政策科学研究科長等を歴任
- * 専門は財政学、地域経済論、環境経済学、研究テーマは社会資本・都市・国家・環境などの外部性を経済学の体系に編成

元文学部部長・理事 文学部教授

筧文生(かげひふみお)

- 一九三四年一月一六日生まれ
- 一九五七年三月 京都大学文学部卒業
- 一九五九年三月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 一九六二年三月 同博士課程単位取得退学
- 京都大学助手、中国上海外国語学院講師を経て
- 一九七二年四月 本学文学部助教授
- 一九七七年四月 同教授

- * 文学部部長・理事、人文科学研究所長等を歴任
- * 専門は中国文学、研究テーマは李白研究

文学部教授

菅井鳳展(すがいよしのぶ)

- 一九三四年一月二日生まれ
- 一九六〇年三月 福島大学文学部卒業
- 一九六四年三月 京都大学大学院教育学研究科修士課程修了
- 一九六七年三月 同博士課程単位取得

教授

元副総長・副学長・理事 経済学部教授

芦田文夫(あしたふみお)

- 一九三四年二月三日生まれ
- 一九五七年三月 京都大学経済学部卒業
- 一九五九年三月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 一九六二年三月 同博士課程単位取得退学
- 一九六三年四月 本学経済学部専任講師
- 一九六五年四月 同助教授
- 一九七二年四月 同教授

- * 副総長・副学長・理事、教務部長、経済学部長代行等を歴任
- * 専門は経済政策・理論、研究テーマは「体制の転換」と経済学の課題

退学

愛媛女子短期大学講師、同助教授 同教授を経て

一九七九年四月 本学文学部助教授
一九八〇年四月 同教授

* 科学研究研究所長、学生部次長等を
兼任

* 専門は教育学、研究テーマは近代にお
ける学校教育制度の思想及び学生文化

文学部教授

松本幸男（まつもと ゆきお）

一九三五年三月二〇日生まれ

一九五七年三月 立命館大学文学部卒業

一九六〇年七月 立命館大学大学院文
学研究科修士課程修了

一九六五年三月 同博士課程単位取得
退学

神戸山手学園・立命館高等学校・京都
府立鴨沂高等学校・大阪府立島上高等
学校教諭を経て

一九七三年四月 本学文学部助教授
一九七八年四月 同教授

* 大学協議員、文学部主事、中国文学専
攻主任等を歴任

* 専門は中国文学、研究テーマは五言詩
の成立と展開

理工学部教授

苅屋公明（かりや こうみょう）

一九三四年七月一〇日生まれ

一九五七年三月 立命館大学理工学部
卒業

理学電機株式会社を経て

一九六四年四月 本学理工学部専任講師

一九六七年四月 同助教授

一九七〇年四月 同教授

* 調査委員長、国際交流委員会副委員長
等を歴任

* 専門は計測工学、研究テーマは「計測
科学」の構築

理工学部教授

林隆俊（はやしたかと）

一九三四年八月五日生まれ

一九五七年三月 大阪市立大学理工学
部卒業

高等学校教諭、大阪大学工学部助手、
同助教授を経て

一九七二年四月 本学理工学部助教授

一九七三年四月 同教授

* 化学科主任、応用化学系学系長等を
歴任

* 専門は合成化学、研究テーマは芳香族
有機化合物の構造と反応

理工学部教授

山本善中（やまもと よしなか）

一九三四年一〇月二日生まれ

一九六〇年三月 立命館大学理工学部
卒業

株式会社大金製作所を経て

一九六〇年九月 本学理工学部教室助手

一九六九年五月 同助手

一九八三年四月 同助教授

一九九二年四月 同教授

* 化学科主任、応用化学系副学系長等を
歴任

* 専門は電気化学、研究テーマは固体イ
オニクス、固体電解質、燃料電池
各種化学電池、複合材料

助教授

経済学部助教授

山村哲三（やまむら たけぞう）

一九三九年八月二日生まれ

一九六四年三月 東京教育大学文学部
卒業

一九六七年三月 東京教育大学大学院
文学研究科修士課程修了

千葉商科大学専任講師を経て

一九六九年四月 本学経済学部専任講師

一九六九年一〇月 本学経済学部助教授

* 専門はドイツ語、研究テーマは現代ド
イツ文学。主にフランク・カフカの著
作研究

教諭

元常務理事（総務担当）

立命館宇治高等学校教諭

立命館宇治高等学校教諭

立命館宇治高等学校教諭

伊藤浩敬（いとう ひろたか）

立命館宇治高等学校教諭

立命館宇治高等学校教諭

立命館宇治高等学校教諭

立命館宇治高等学校教諭

和藏順人（わらじゅんじん）

立命館大学慶祥高等学校教諭

三坂義則（みづか よしのり）

立命館大学慶祥高等学校教諭

宮古壇（みやこだん）

事務職員

理事長室部長・東京オフィス所長

森川彰（もりかわ あきら）

中等教育推進課・前課長

市川靖（いちかわ やすし）

BKC国際課・前文学部事務長
橋本晶夫（はしもと あきら）

BKC教務センター経営学部
課長補佐
山田洋子（やまだ ようこ）

産業社会学部事務室

芦澤成浩（あしざわ しげひろ）

文学部事務室

宇津三喜男（うつ みきお）

衣笠研究支援センター
樋口靖彦（ひぐち やすひこ）

衣笠情報サービス課
細川悦子（ほそかわ えつこ）

法学部100周年記念 論文募集

立命館大学法学部では、100周年を新しい法学・政治学の展開への画期として位置づけ、記念論文を募集します。卒業生の皆さん、新時代に向けて新鮮な社会展望を語って下さい。

募集要項

- [応募資格] 本学法学部を卒業、または大学院法学研究科を修了した者。
法学部の前身の学部・学科等を含む。
- [論 題] 「21世紀の法・政治」
例) 社会変動と私たちの権利
「国民のくらしと裁判制度」
「環境保護と法」
「国際社会と日本の法」
「政治改革と日本の課題」など
- [字数・書式] 日本語で10,000～20,000字
A4用紙に手書きまたは印字して郵送のこと
- [応募期間] 2000年4月1日～6月30日

審査および表彰

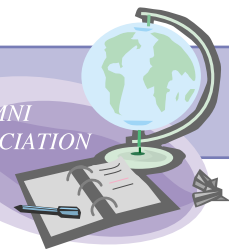
- [審査委員] 園部逸夫（法学部客員教授、元最高裁判所裁判官）
乾 昭三（法学部名誉教授）
北村春江（芦屋市長、昭和27年卒）
川端義明（NHKアナウンス室チーフ・アナウンサー、昭和50年卒）
大河純夫（法学部長）
- [賞・副賞] 大賞1名・10万円
金賞1名・5万円
銀賞2名・3万円
特別賞若干名・1万円
入選若干名
- [入賞発表] 2000年9月1日

お問い合わせ・応募論文送付先

立命館大学法学部事務室

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 Tel. 075 (465) 8175





立命館大学奈良県校友会	冷水 良彦	〒631-0812	奈良県奈良市秋篠早月町5-14	冷水 良彦 方	0742-33-0328
立命館大学和歌山県校友会	門 弘	〒640-8303	和歌山県和歌山市鳴神248-51	山田 啓二郎 方	0734-71-4911
立命館大学鳥取県東部校友会	津田 譲	〒680-0022	鳥取県鳥取市西町2-109	津田 譲 方	0857-24-6218
立命館大学鳥取県西部校友会	来間 廉	〒683-0033	鳥取県米子市彦名町1460-4	来間 廉 気付	0859-29-7211
立命館大学島根県校友会	坂根 勝	〒690-0012	島根県松江市古志原2丁目11番53号	栗原 義和 方	0852-28-5528
立命館大学岡山県校友会	森谷 庸雄	〒700-0902	岡山県岡山市錦町3-101	天水101 守屋 博司 気付	0862-33-5101
立命館大学広島県校友会	高田 美彦	〒731-0223	広島市安佐北区可部南4-10-9-5	松島 哲也 方	082-814-8839
立命館大学広島県東部校友会	後藤 克公	〒729-3102	広島県芦品郡新市町相方470	加富屋 慎内 後藤 克公 気付	0847-52-3555
立命館大学山口県校友会	東 章	〒753-0085	山口県山口市新馬場11-1	一の坂GM803号 田中 勉 方	0839-32-5879
立命館大学宇部小野田校友会	河野 積善	〒755-8601	山口県宇部市常盤町1-7-1	宇部市役所内 森島 正信 気付	0836-31-4111
立命館大学徳島県校友会	板東 哲夫	〒770-0804	徳島県徳島市中吉野町1-39	板東 哲夫 方	0886-52-7171
立命館大学香川県校友会	田村 貞光	〒760-0024	香川県高松市兵庫町4-3	田村 貞光 方	0878-51-9280
立命館大学愛媛県校友会	織田 健太郎	〒790-0833	愛媛県松山市祝谷4-6-14	織田 健太郎 方	089-926-2811
立命館大学高知県校友会	堀田 誠一	〒780-0966	高知県高知市福井扇町6-18	高知情報サピス 気付	0888-24-8434
立命館大学福岡県校友会	清家 邦敏	〒816-0092	福岡県福岡市博多区東那珂3-6-62	大成印刷 慎内 清家 邦敏 気付	092-472-2621
立命館大学北九州校友会	高藤 昌和	〒800-8550	福岡県北九州市門司区東新町1-1-30	高藤建設 慎内 高藤 昌和 気付	093-381-0461
立命館大学佐賀県校友会	中島 欣一	〒840-2203	佐賀県佐賀郡川副町大字早津江525-1	西村 邦彦 方	0952-45-0549
立命館大学長崎県校友会	樋口 勉	〒857-0043	長崎県佐世保市天満町2-25	サンビル2F 古原法律事務所内 池田 正和 気付	0956-24-7980
立命館大学熊本県校友会	吉良 禎人	〒860-0017	熊本県熊本市練兵町1番地	財団法人地域流通経済研究所内 飯田 俊之 気付	096-322-2566
立命館大学大分県校友会	中野 秀勝	〒879-5531	大分県大分郡挾間町大字谷970	岡崎 信行 方	0975-83-1432
立命館大学宮崎県校友会	林 莊治郎	〒880-0022	宮崎県宮崎市大橋1丁目199番地	南 英輝 方	0985-25-9884
立命館大学鹿児島県校友会	松山 保	〒890-0046	鹿児島県鹿児島市西田二丁目1-1	(有)イーシーオー内 福元 正人 気付	099-253-7200
立命館大学沖縄県校友会	嘉数 次郎	〒900-0024	沖縄県那覇市古波蔵4-13-47	嘉数 次郎 方	098-855-4133

学部校友会

校友会名	会長名	住所	電話番号
立命館大学産業社会学部リユニオン	都鳥 正喜	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 産業社会学部事務室内	075-465-8184
立命館大学国際関係学部校友会	石賀 良子	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 国際関係学部事務室内	075-465-1211
立命館大学経済学部同窓会	高橋 宗治郎	〒603-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学 教務センター経済学部内	077-561-3940
立命館大学 政策科学部 同窓会	新井 弘徳	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 政策科学部事務室 気付	075-465-8166



都道府県校友会・学部校友会連絡先一覧



都道府県校友会

校友会名	会長名	住所	電話番号
立命館大学北海道校友会	下村 一	〒061-1141 北海道北広島市青葉町2丁目4-1 佐久間 恭方	011-373-0223
立命館大学東北道校友会	合田 賢二	〒080-0811 北海道帯広市東11条南9-1 合田 賢二 方	0155-23-6453
立命館大学青森県校友会	古舘 襄	〒030-0943 青森県青森市幸畑3丁目10番16号 福嶋 正雄 方	0177-38-0912
立命館大学岩手県校友会	富沢 健吾	〒020-0015 岩手県盛岡市本町通1-8-22-907 大橋 謙一 方	019-623-6575
立命館大学宮城県校友会	逸見 英夫	〒983-0012 宮城県仙台市宮城野区出花2丁目11-9 仙台ガス㈱内 大沼 久明 気付	022-259-5511
立命館大学秋田県校友会	斎藤 智	〒010-0951 秋田県秋田市山王4-2-3 秋田県市町村職員退職手当組合 兜森 勲夫 気付	0188-62-3854
立命館大学山形県校友会	奥山 正明	〒991-0032 山形県寒河江市南町2丁目3番13号 奥山 正明 会計事務所気付	0237-86-5215
立命館大学福島県校友会	阿部 治郎	〒963-4602 福島県田村郡常葉町大字常葉字内町52-1 樽井 一治 方	0247-77-3039
立命館大学茨城県校友会	木村 幸夫	〒310-0903 茨城県水戸市堀町2247-8 木村 幸夫 方	029-252-8401
立命館大学栃木県校友会	高野 雅文	〒321-0912 栃木県宇都宮市石井町2860-2 小林 睦男 方	028-661-6606
立命館大学群馬県校友会	金子 嘉男	〒370-0087 群馬県高崎市楽間町280-3 石橋 博 方	027-344-4560
立命館大学埼玉県校友会	松田 浩章	〒339-0003 埼玉県岩槻市小溝26-162 中上 昌彦 方	048-794-7988
立命館大学千葉県校友会	角野 誓紀	〒284-0024 千葉県四街道市旭ヶ丘5-4-1 角野 誓紀 方	043-433-0669
立命館大学東京都校友会	住野 公一	〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-19 辰沼建物ビル8階 立命館大学東京オフィス 気付	03-5204-8611
立命館大学神奈川県校友会	堤 清一郎	〒226-0006 神奈川県横浜市緑区白山4-23-19 長谷川 貞栄 方	045-933-4662
立命館大学新潟県校友会	大西 淳	〒950-0885 新潟県新潟市下木戸1丁目11-8 ㈱大西内 大西 淳 方	025-274-9155
立命館大学富山県校友会	中村 正夫	〒930-0882 富山県富山市五艘1389 小川 輝久 方	0764-31-9726
立命館大学石川県校友会	大井 一星	〒920-0961 石川県金沢市香林坊2-7-15 ㈱北陸中日新聞社 児玉 弘毅 気付	076-233-9691
立命館大学福井県校友会	永多 外男	〒919-0326 福井県福井市半田町6-14-3 沢田 謙三 方	0776-38-2000
立命館大学山梨県校友会	野口 忠蔵	〒400-0124 山梨県中巨摩郡敷島町中下条442-27 進藤 一徳 方	055-277-4928
立命館大学長野県校友会	柳原 信	〒390-0303 長野県松本市大字浅間温泉1-19-8 柳原 信 方	0263-46-2644
立命館大学岐阜県校友会	林 隆聖	〒500-8323 岐阜県岐阜市鹿島町6-27 市川工務店 第2営業部 折戸 優児 方	0582-51-2242
立命館大学静岡県校友会	鈴木 敏彦	〒433-8114 静岡県浜松市葵東2-11-5 鈴木 敏彦 方	053-436-7892
立命館大学愛知県校友会	土田 三次郎	〒462-0861 愛知県名古屋市中区辻本通1-21 ㈱名古屋冠婚葬祭互助会 秘書室 気付	052-916-1282
立命館大学三重県校友会	市川 武彦	〒514-0043 三重県津市南新町16-39 近沢 日出夫 方	059-228-5778
立命館大学滋賀県校友会	高橋 宗治郎	〒520-8686 滋賀県大津市浜町1番38号 滋賀銀行 審査部内 山形 毅 気付	077-521-2310
立命館大学京都校友会	道端 進	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学内	075-465-8120
立命館大学大阪校友会	岡 泰造	〒531-8550 大阪市北区本庄東2-3-41 (株)きんでん 監査役室 気付	06-6375-6148
立命館大学兵庫県校友会	藤澤 福男	〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1 園田学園女子大学 エクステンションセンター 気付	06-6429-9908

編集室から

*今号の企画には半年の時間を費やし、4回の編集委員会を行った。広報委員全員の熱のこもった内容だと自負している。23万人の校友はこの100年の歴史の中に確かに個々の足跡を残している。2年間4年間いや6年間の接点で学問研究に、クラブ活動に、仲間との出会いに青春時代を燃焼させ館史にも貢献した。そして、そのエネルギーで個々の人生を支え、いやいまの道を果敢に開いているのだ。今号が共に励んだ輩を思い、出会う機会となり、5月20日には校友会が寄贈したAPUの正門を共に見ることができれば幸いだ。

(和)

*2000年紀の年に学園創立100周年を迎え、APU開学とあわせて記念すべき時に校友会報200号を発行することとなった。10年前の、創始120年・学園創立90周年の記念行事“ホームカミングデー”や、早稲田大学との記念野球試合が、ついこの間のように思われる。15年前の118号から表紙がカラー刷りになり、正方形の今のスタイルに変わってからはや3年めである。学園の発展と校友諸兄姉のご活躍を祈るとともに、201号以降も校友各位に愛される会報を目指して取り組んでまいりたい。

(覚)

*私が小誌の編集に関わってから、かれこれ30年近くになる。かつて一番頭を悩ませたのが新校友歓迎号の特集記事であったが、座談会ではマンネリだということで、1991年の150号では「出発(たびだち)の時にあなたへの手紙」というものを企画した。企業OBとそこに就職する新校友との往復書簡である。その時新校友として登場願った朝日新聞社の奥村晶さんには、その後週刊朝日記者時代に192号(98年6月号)の表紙を飾っていただいた。彼女は今、大阪本社夕刊編集部の記事として署名入りの特集記事を書いており、ご存知の方も多いと思う。小誌に登場された皆さんが、以後大きく育っていかれるのを期待しながら見るのも、広報委員の醍醐味である。

(保)

2000年度モニター募集

「りつめい」各号内容についてのアンケート調査にご協力いただきたいと思います。

期間は2000年7月1日号(No.201)から1年間。モニターには期間終了後粗品を進呈いたします。葉書に住所・氏名・卒年・学部・職業を明記の上、5月10日(水)必着でご応募下さい。

〒603-8577 立命館大学校友会 会報モニター募集係まで

りつめい No.200 / 年4回発行

発行所 / 立命館大学校友会
 編集人 / 尾崎 敬則
 発行人 / 河原 四郎
 〒603-8577 京都市北区等持院北町
 Tel. 075 (465) 8120・8124
 Fax. 075 (465) 8125
 http://www.ritsumei.ac.jp

I N F O R M A T I O N

校友会・グループ インフォメーション

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
学園創立100周年記念式典 2000年度全国校友大会	5/20(土) 13:30	ビーコンプラザ コンベンションホール	校友会事務局 075(465)8120
香川県校友会総会	6/3(土) 15:00	リーガホテルゼスト高松	酒井 成徳 087(886)9527
徳島県校友会総会	6/3(土) 17:00	阿波観光ホテル	板東 愷夫 088(652)7171
立命館大学交響楽団OB会総会	6/3(土) 18:30	ホテルニュー京都	安達 充 075(465)8116
東京地区新人歓迎会	6/10(土) 14:00	有楽町 山水楼	東京オフィス 03(5204)8611
応援団50周年記念式典	7/8(土) 15:00	都ホテル	田上 誠 0774(32)9662

校友会消息(判明分)

叙勲 1999年度秋分

伊豆善也氏(昭27経済)
元福岡県議会副議長

授章 2000年2月

加藤周一客員教授
仏政府 レジオン・ドヌール勲章

就任 1999年11月

隈元 新氏(昭48経営)
鹿児島県大口市長(再選)
下畑豊文氏(昭42経済)
大阪酸素工業(株)取締役社長

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただきます。



- 猪飼正夫氏(昭38経済)著 『管理者が元気に元気を出す本』 いがい 啓研 * 1500円
- 鈴木 元氏(昭44経済)著 『瞬時 ヘルペス脳炎に倒れた妻よ』 かもがわ出版 * 1600円
- 葛原克人氏(昭39文)著 『岡山文庫201 総社の散策』 日本文教出版 * 800円
- 村上哲大氏(昭37法)著 『21世紀究極の組織 「一人会社制」』 都市文化社 * 2800円
- 浅野 徹氏(昭43文)著 『詩集 幸せ感覚』 詩画工房 * 2000円
- 黒川美富子氏(昭45文)著 『遠い声 近い声 耳の神秘・聴覚障害の周辺』 文理閣 * 1700円

価格は本体価格です。

学生行事案内

アメリカンフットボール
学園創立100周年記念試合

立命館大学バンサーズ vs. UBC(プリティッシュ・コロンビア大学)サンダーバード
 日時: 5月12日(金) 18:20 キックオフ
 場所: 西京極陸上競技場
 料金: 一般前売 1,000円 当日 1,200円

問い合わせ先
立命館大学学生会 スポーツ強化センター
Tel. 075 (465) 7863



立命館大学交響楽団
45周年記念演奏会

日時: 6月3日(土) 14:00開演
 会場: 京都コンサートホール
 演目: ドヴォルザーク 交響曲第7番
 リスト 交響詩「前奏曲」
 モーツァルト「魔笛」序曲
 入場料: 500円

問い合わせ先
立命館大学交響楽団
Tel. 075 (465) 8263 呼

